

第 29 回トキ野生復帰検討会 議事次第

日時：令和8年 10 月 14 日(水)9:00～11:30

場所：出雲市役所 3階庁議室・大会議室
(オンライン併用)

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

(1)令和8年度のトキの繁殖結果及び令和9年度の繁殖計画について

(2)佐渡島における野生下のトキの繁殖状況について【報告】

(3)能登地域におけるトキの放鳥結果について(石川県)【報告】

(4)能登地域におけるトキの生息状況について～衛星追跡データから～【報告】

(5)出雲市における第 1 回放鳥計画について(出雲市)

(6)今後の放鳥計画について

4. その他

(1)多摩動物公園での一般公開等について

(2)検討委員について

5. 閉会

■配布資料

資料1 令和8年度のトキの繁殖結果及び令和9年度の繁殖計画について
参考資料1 トキの飼育繁殖の状況等について

資料2 佐渡島における野生下のトキの繁殖状況について

資料3 能登地域におけるトキの放鳥結果について(石川県)

資料4 能登地域におけるトキの生息状況について～衛星追跡データから～

資料5 出雲市における第1回放鳥計画について(出雲市)

資料6 今後の放鳥計画について

トキの飼育繁殖の 状況等について

佐渡トキ保護センター

2026.10.14 第29回トキ野生復帰検討会

1 前回の検討会以降の主な経過

繁殖

- ・3月2日 初産卵(多摩動物公園)
- ・3月31日 初孵化(//)
- ・7月7日 今期繁殖終了(ヒナ32羽が全て巣立ち)

訓練・放鳥

- ・3月3日,5日 順化訓練開始(20羽) ※2羽途中で訓練中止
- ・5月31日 第33回放鳥ハードリリース(8羽、石川県羽咋市)
- ・6月14日 第33回放鳥ソフトリリース(10羽、 // 仮設ケージ)
- ・6月25日 順化訓練開始(12羽) ※2羽途中で死亡
- ・10月7日 第34回放鳥ソフトリリース(9羽、石川県中能登町
仮設ケージ)

2 飼育状況

単位:羽

	成鳥	R8生	計
佐渡トキ保護センター	68	7	75
// 野生復帰ステーション	27	5	32
佐渡市トキふれあいプラザ	2	2	4
多摩動物公園	7	7	14
いしかわ動物園	7	4	11
出雲市トキ分散飼育センター	10	3	13
長岡市トキ分散飼育センター	10	4	14
計	131	32	163

(令和8年10月8日時点)

3 令和8年飼育・繁殖状況

＜今期繁殖ペア数＞

単位：ペア

センター	ステーション	佐渡市	多摩 いしかわ 出雲市 長岡市	計
5	5	1	各3	23

<産卵状況>

単位:個

産卵数	検査不能	検査済み	
109	初期破卵	無精卵	有精卵
	36(33.0%)	13	<u>60</u> (82.2%)

=破卵数/産卵数

=有精卵数/(産卵数-初期破卵数)

<孵化状況>

単位:個、羽

発育中止/後期破卵	孵化成功(56.7%)	
26	自然孵化	人工孵化
	<u>20</u>	<u>14</u>

<育雛状況>

孵化した計34羽のうち33羽(97.1%)が巣立ち

<繁殖結果>

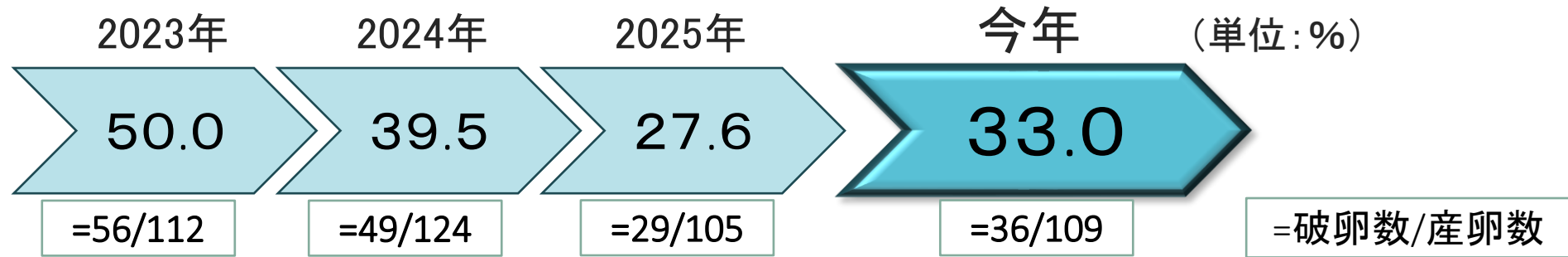
単位:羽

	計画ヒナ数	巣立ちヒナ数	孵化・育雛状況
繁殖候補育成ペア (2ペア)	3	4	人工孵化・自然育雛
放鳥候補育成ペア (21ペア)	31.5	29	* ・自然育雛
計	34.5	33	

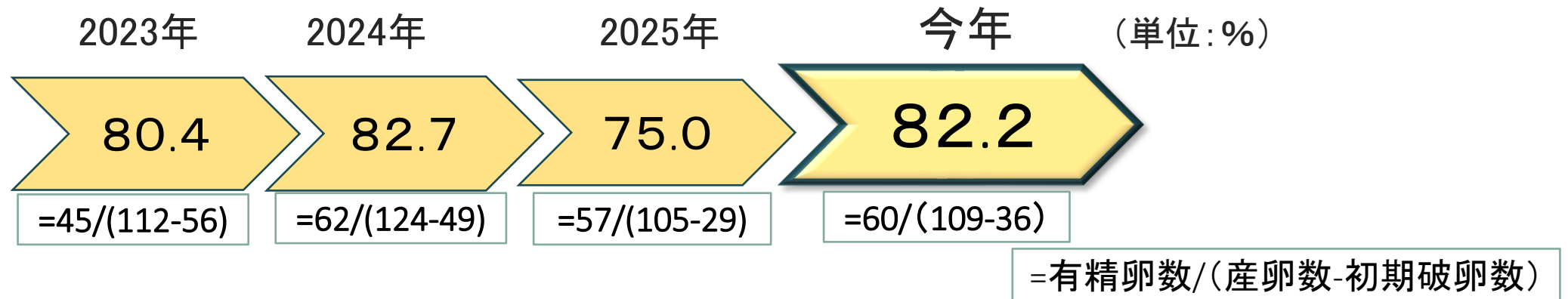
* { 自然孵化: 9ペア
人工孵化: 5ペア

<繁殖まとめ1:産卵状況>

①初期破卵による失敗率は低下傾向が継続

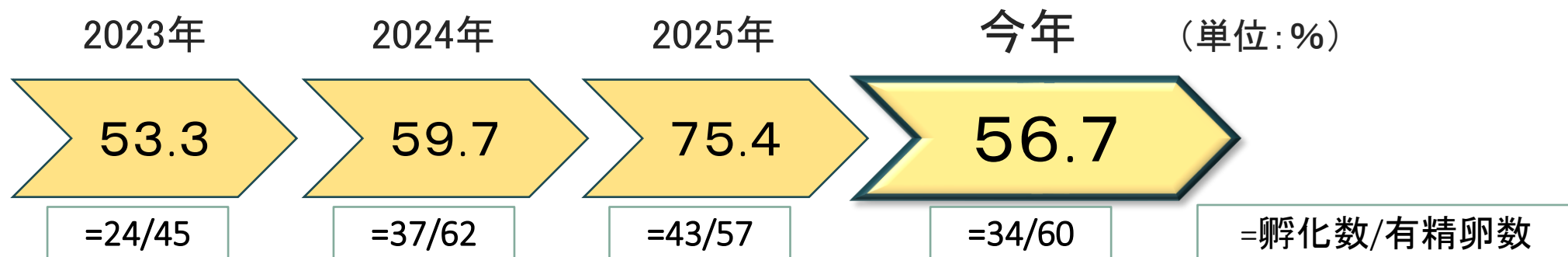


②有精卵率はほぼ例年並み

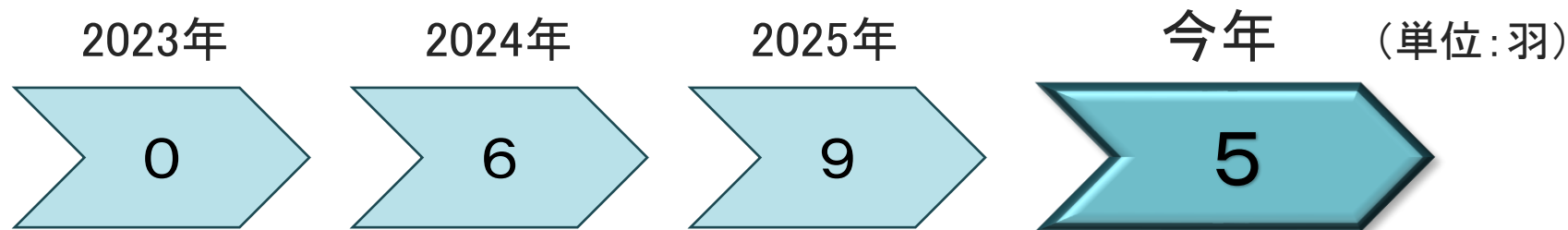


<繁殖まとめ2: 孵化状況、育雛状況>

③ 孵化成功率は例年並み



④ 人の手を全く介さない「完全自然孵化・育雛」によるヒナは減少



<繁殖まとめ3:考察>

①初期発生での失敗率低下傾向が継続

飼育環境の改善などにより、繁殖時における親個体のストレスが軽減されてきているものと推測。ストレスを原因としない破卵も一定数あるため、今後より失敗率を低下させるためには、様々な原因を勘案した対策が必要。

②完全自然孵化・育雛(完全自然)で生まれたヒナ数の減少

今年:ヒナ5羽・2ペア(毎年完全自然に成功している1ペア+新規1ペア)
成功ペアが翌年以降も継続していくことが重要。各ペアにあった飼育繁殖環境の準備の徹底が必要。

4 令和9年の繁殖計画について

方針

- ・繁殖候補育成ペア→楼楼、関関を含むペアを主体（人工孵化・自然育雛を基本）
- ・放鳥候補育成ペア→華陽、溢水、楼楼、関関系統によるペアで自然繁殖に取り組む
- ・本州放鳥の個体数確保のため、ペア数を維持する

計画

- ・繁殖不振、問題行動を示した7ペアを解消して、新たに7ペアを形成
- ・計画羽数は、23ペアからの34.5羽とする（令和8年計画と同数）

<ペア変更:解消、新規形成>

単位:ペア

場所	センター	ステーション	多摩	いしかわ	出雲	長岡	佐渡	計
解消	2 ^(*)	3	0	0	1	1	0	7
新規形成	4	1	0	0	1	1	0	7

* 関関、楼楼ペアを含む。

<来期ペア(合計)>

単位:ペア

場所	センター	ステーション	多摩	いしかわ	出雲	長岡	佐渡	合計
来期ペア数	6 ^(*1)	5 ^(*2)	2	3	3	3	1	23

* 1: 多摩1ペアについて、ペアを変えずにセンターへ移動する。

* 2: センター2ペアについて、ペアを変えずにステーションへ移動する。

5 野生復帰に向けた順化訓練の概要

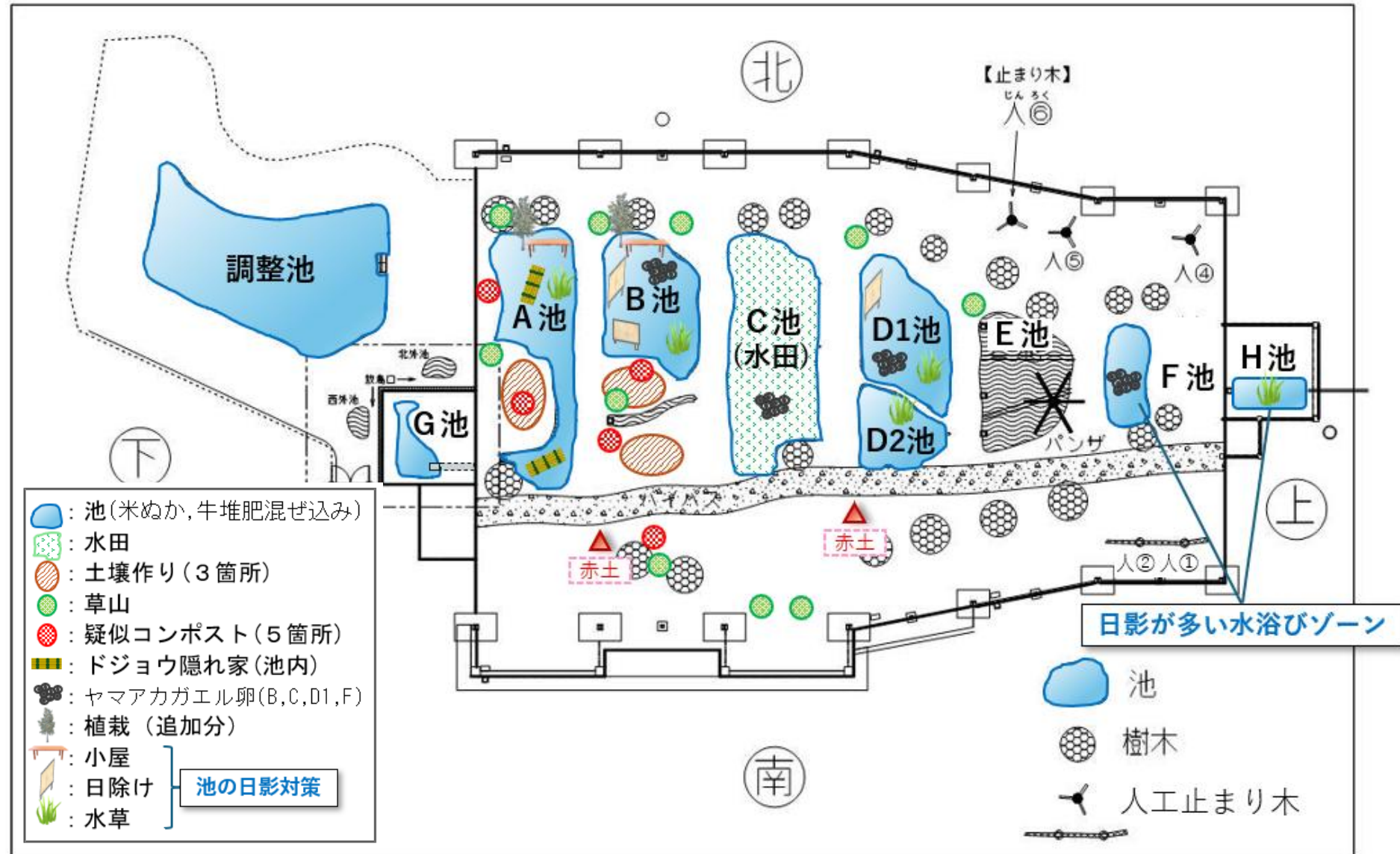
日付	第1回能登地域におけるトキ放鳥に向けた第33回順化訓練実施内容
3月3日	1歳～13歳のオス11羽とメス7羽の計18羽により、順化訓練を開始 (訓練個体20羽のうちメス2羽は別ケージに収容)
3月5日	別ケージに収容した2羽の順化訓練を開始
4月14日	体調不良を確認したオス1羽について捕獲し、訓練中止 (4月12日より、ふらつき飛翔旋回や神経症状を確認)
5月12日	体調不良を確認したオス1羽について捕獲し、訓練中止 (5月4日ふらつき歩行などを確認。5月11日にも飛翔時植栽に接触後ふらつき歩行があり、翌日(5月12日)後弓反張を確認)
5月30日	順化ケージで18羽を捕獲し、石川県羽咋市に移送

5 野生復帰に向けた順化訓練の概要

日付	第2回能登地域におけるトキ放鳥に向けた第34回順化訓練
6月25日	1歳～13歳のオス6羽とメス6羽の計12羽により、順化訓練を開始
7月19日	体調不良を確認したメス1羽について捕獲、死亡を確認 (開口呼吸及び神経症状を確認したため捕獲したところ、自発呼吸なく心肺停止状態。処置を施したが死亡)
9月19日	全羽一斉飛翔の際にネットに衝突して地面に落下したメス1羽について捕獲、死亡を確認
9月24日	順化ケージで10羽を捕獲し、石川県中能登町に移送(のち順化中にオス1羽が脱落)

第33、34回ともに計画していた訓練内容については、概ねスケジュール通りに実施

5 野生復帰に向けた順化訓練の概要



#採餌訓練の充実を図るため、順化ケージ内の生物種を増やす環境整備を実施中

佐渡自然保護官事務所
佐渡トキ保護センター

トキの飼育繁殖の状況等について

1 前回の野生復帰検討会（令和 8 年 2 月 9 日）以降の主な経過

年 月 日	主 な 内 容
<令和 8 年>	
3 月 2 日	今期初産卵（CQ ペア：多摩動物公園）
3 月 3 日	第 33 回順化訓練開始（20 羽） ※うち 2 羽は、一旦別ケージに収容して 3 月 5 日から訓練開始
3 月 31 日	今期初孵化（CQ ペア：多摩動物公園）
5 月 31 日	第 33 回放鳥 石川県羽咋市でハードリリース（8 羽）
6 月 14 日	第 33 回放鳥 石川県羽咋市で仮設ケージからのソフトリリース（10 羽）
6 月 25 日	第 34 回順化訓練開始（12 羽）
7 月 7 日	32 羽全てのヒナが巣立ち、今期繁殖期が終了 （出雲市トキ分散飼育センターで CL ペアのヒナが巣立ち）
10 月 7 日	第 34 回放鳥 石川県中能登町で仮設ケージからのソフトリリース（9 羽）

2 飼育状況（令和 8 年 10 月 8 日時点）

単位：羽

区 分	成鳥	R 8 生	計
佐渡トキ保護センター	68	7	75
〃 野生復帰ステーション	27	5	32
佐渡市トキふれあいプラザ	2	2	4
多摩動物公園	7	7	14
いしかわ動物園	7	4	11
出雲市トキ分散飼育センター	10	3	13
長岡市トキ分散飼育センター	10	4	14
計	131	32	163

3 令和 8 年飼育・繁殖状況

(1) 繁殖ペア

今期は以下の 23 ペアを形成し、飼育下トキの繁殖に取り組んだ。

佐渡トキ保護センター	: 5 ペア (CP DF DG DH DI)
〃 野生復帰ステーション	: 5 ペア (BT CO CU CV DJ)
佐渡市トキふれあいプラザ	: 1 ペア (DA)
多摩動物公園	: 3 ペア (CQ DK DL)
いしかわ動物園	: 3 ペア (CN CZ DM)
出雲市トキ分散飼育センター	: 3 ペア (CL CX DN)
長岡市トキ分散飼育センター	: 3 ペア (CF CY DO)

(2) 産卵状況

今期の初産卵は、3 月 2 日（多摩動物公園：CQ）であった。繁殖期間中に合計 109 個の産卵があり、1 ペア当たりの産卵数は、4.7 個であった。109 個のうち、不明卵（初期破卵）36 個を除いて検査した結果、有精卵は 73 個中 60 個（有精卵率 82.2%）であった。

<ペアタイプ別有精卵率>

繁殖候補育成ペア（2 ペア）：90.9%（前年 100.0%、前々年 62.5%）

放鳥候補育成ペア（21 ペア）：80.6%（前年 72.5%、前々年 85.1%）

(3) 孵化状況

60 個の有精卵から、自然孵化で 20 羽、人工孵化で 14 羽の、合計 34 羽のヒナが誕生した（孵化成功率 56.7%）。残りの 26 卵については、20 卵が発育中止、6 卵が抱卵中もしくは自然孵化直前の破卵によって孵化には至らなかった。

(4) 育雛状況

孵化した 34 羽のヒナのうち、以下の 1 羽が自然育雛中に死亡（給餌不足と思われる）した。残る 33 羽のヒナ（97.1%）は、各施設において順調に巣立ちを迎えた。

1020/DI/26（佐渡トキ保護センター）

（※巣立ち後さらに、事故により 1 羽死亡 1009/DK/26（多摩動物公園））

(5) 自然繁殖状況

自然孵化・自然育雛を基本方針として繁殖を進め、全 23 ペアのうち 9 ペアで自然孵化・自然育雛に成功し、5 ペアが人工孵化後の自然育雛に成功した。他 9 ペアは、相性が悪く早期のペア分離、破卵などの理由でヒナ誕生に至らなかった。

<自然孵化・自然育雛 9 ペア>

CL、CQ、CU、CY、CZ、DG、DI、DK、DO

＜人工孵化・自然育雛 5 ペア＞ ※人工育雛→自然育雛を複数回繰り返したペアを含む
CN、CP、CV、DA、DL

（６）繁殖候補育成ペア及び放鳥候補育成ペアの繁殖結果

・繁殖候補育成ペア（CP、DF）

計画 3 羽（2 ペア×1.5 羽） → 巣立ヒナ数 4 羽
人工孵化・自然育雛 4 羽
人工孵化・人工育雛 0 羽

・放鳥候補育成ペア

計画 31.5 羽（21 ペア×1.5 羽） → 巣立ヒナ数 29 羽

（７）まとめ

①産卵直後の落下等による破卵での失敗率は、2023 年は 50.0%（56/112 個）、2024 年は 39.5%（49/124 個）、2025 年は 27.6%（29/105 個）と低下傾向にあり、今年は 33.0%（36/109 個）であった。佐渡トキ保護センター（野生復帰ステーション含む）では、2025 年の 28.9%（11/38 個）と比較して今年は 31.0%（13/42 個）とほぼ横ばいであった。巣外への卵の放棄はストレスが主要因とされており、飼育環境の改善などにより繁殖時のストレスを以前より減らせてきていると考えられる。しかし、誤って卵が割れてしまったなどストレスを原因としない破卵も一定数あるため、こうした要素を勘案した上でいかに失敗率を 30%以下に抑えるかが今後の課題である。

②全繁殖施設での有精卵率は 82.2%であり、昨年の 75.0%、一昨年の 82.7%と比較してほぼ同じレベルであった（佐渡トキ保護センターでの有精卵率は、今年 93.1%、昨年 81.5%）。

③今年の孵化成功率 56.7%は、昨年の 75.4%と比較して低い値となったが、2024 年（59.7%）、2023 年（53.3%）と同程度であった。昨年の高い孵化成功率には多くのペアが前年と同じ組み合わせで繁殖経験値が高くなったことなどが要因として考えられたが、今年は全 23 ペアのうち新規ペアが 10 ペアと多かった（問題行動等でのペア解消と佐渡トキ保護センターと多摩動物公園で行った試験的な自然なペアリング形成※のため）ため、例年並みの孵化率に戻ったものと思われる。

※自然なペアリング形成にトライしたペアでは、DI ペアが孵化から巣立ちまで全く人が介在しない本来の意味での自然孵化・自然育雛（完全自然）に成功し、DK ペアも自然孵化・自然育雛に成功した。ただし、1 期のみの結果では効果の有無まで言えないため、今後も検証していく必要がある。

④自然孵化・自然育雛で生まれたヒナは、昨年の 22 ペア中 9 ペアから計 24 羽（孵化個体の 55.8%）に対して、今年は 23 ペア中 9 ペアから計 20 羽（孵化個体の 58.8%）とな

り、個体数は減少したものの割合としては若干増加した。孵化から巣立ちまで全く人が介在しない本来の意味での自然孵化・自然育雛（完全自然）に成功した個体は、昨年の 9 羽から 5 羽に減少した。ペア数は 2 ペアで、毎年完全自然に成功している 1 ペア及び新規 1 ペアであった。人が介在しない完全自然個体を増やすためには、新規ペアによる完全自然の成功はもとより、成功したペアが翌年以降も完全自然を継続していくことが重要と思われる。その実現に向けて今後も各ペアにあった飼育繁殖方法を検討し、飼育環境の改善を含む繁殖前の準備の徹底により、完全自然成功ペア数の増加を目指していく。

4 令和 9 年繁殖計画

（１）繁殖ペアの考え方

- ・繁殖候補育成を目的とするペアは、楼楼、関関を含む 2 ペアとする。
- ・放鳥候補育成を目的とするペアは、原則として、華陽、溢水、楼楼、関関の系統を含むペアとする。
- ・ペアの解消は、分散飼育地の意見を踏まえ、繁殖成績、ペアの相性、雌雄間の問題行動及び遺伝的多様性を考慮して決定する。
- ・新規ペアについては、楼楼、関関の系統及び佐渡トキ保護センターで飼養中の繁殖可能個体を主体とし、遺伝的多様性、個体の年齢、共祖係数を参考にして決定する。
- ・令和 8 年の繁殖期には、実際に巣立ちした幼鳥数が計画羽数を若干下回った（計画 34.5 羽→実績 33 羽）ものの、本州放鳥の個体数確保のため繁殖ペアは引き続き 23 とする。

（２）繁殖候補育成ペアの繁殖方針

- ・楼楼・関関を優先したファウンダーによる、繁殖候補個体の育成を目的とする。
- ・人工孵化・自然育雛（仮親を含む）を想定しているが、次世代の繁殖成績向上のため、状況に応じて自然孵化も試みる。

（３）放鳥候補育成ペアの繁殖方針

- ・放鳥候補個体の育成を目的とする。
- ・自然繁殖個体の方が野生下での繁殖成功率が高いことから、できるだけ自然繁殖（自然孵化・自然育雛）を試みる。また、人工孵化となってもできるだけ早期に人工育雛から自然育雛に切り替える。

（４）ペアの解消と新規形成

- ・繁殖成績が不振もしくは問題行動がみられた 7 ペアを解消し（表 1）、新規に 7 ペアを形成する（表 2）。

表1 解消予定ペア

ペア	飼育施設	♂	♀	2026年産卵成績				共祖係数	備 考
				産卵数	有精卵	無精卵	不明		
C0	ST	752/CB/19	786/CC/20	0	0	0	0	0.0510	オスの追いまわし
CP	CE	717/β/16	378/AA/12	6	5	0	1	0.0000	オスの追いまわし
CV	ST	553/AT/15	804/BI/20	5	4	1	0	0.0960	オスの追いまわし
DF	CE	711/BA/18	716/β/16	8	5	1	2	0.0000	発育中止卵が多い
DJ	ST	827/CK/21	820/CC/21	4	0	0	4	0.0830	不仲
DN	出雲	607/Z/16	859/CH/22	0	0	0	0	0.0957	不仲
D0	長岡	570/A0/16	693/BT/18	3	1	0	2	0.1367	オスの飛翔に問題

表2 新規予定ペア

ペア	飼育場所	♂(旧ペア、孵化・育雛形態)	♀(旧ペア、孵化・育雛形態)	共祖係数	備 考
DP	CE	553/AT/15 (CV、人・自)	716/β/16 (DF、中国孵化)	0.0000	
DQ	CE	717/β/16 (CP、中国孵化)	820/CC/21 (DJ、人・自)	0.0000	
DR	CE	711/BA/18 (DF、人・自)	786/CC/20 (C0、人・自)	0.0390	
DS	CE	570/A0/16 (D0、自・自)	378/AA/12 (CP、人・自)	0.1132	
DT	ST	972/CP/25 (新、人・自)	958/CU/25 (新、自・自)	0.0478	
DU	出雲	607/Z/16 (DN、人・自)	804/BI/20 (CV、人・自)	0.1132	
DV	長岡	827/CK/21 (DJ、自・自)	693/BT/18 (D0、自・自)	0.1059	

*DH(CE)、DI(CE)はペア不変のままSTに移動する。

*DL(多摩)はペア不変のままCEに移動する。

(5) 増加見込み羽数

①繁殖候補個体

- ・佐渡トキ保護センター

DP、DQ

$$\cdots \cdots 2(\text{ペア}) \times 1.5 = 3.0$$

①小計 2ペア 3.0羽

②放鳥候補個体

- ・佐渡トキ保護センター

DG、DL、DR、DS

$$\cdots \cdots 4(\text{ペア}) \times 1.5 = 6.0$$

- ・佐渡トキ保護センター野生復帰ステーション

BT、CU、DH、DI、DT

$$\cdots \cdots 5(\text{ペア}) \times 1.5 = 7.5$$

- ・多摩動物公園

CQ、DK

$$\cdots \cdots 2(\text{ペア}) \times 1.5 = 3.0$$

・いしかわ動物園	
<u>CN</u> 、 <u>CZ</u> 、 <u>DM</u>	……3(ペア)×1.5=4.5
・出雲市分散飼育センター	
<u>CL</u> 、 <u>CX</u> 、 <u>DV</u>	……3(ペア)×1.5=4.5
・長岡市分散飼育センター	
<u>CF</u> 、 <u>CY</u> 、 <u>DV</u>	……3(ペア)×1.5=4.5
・佐渡市トキふれあいプラザ	
<u>DA</u>	……1(ペア)×1.5=1.5
	<u>②小計 21 ペア 31.5 羽</u>

合 計 (①+②) 23 ペア 34.5 羽

※斜体は華陽または溢水系統、**太字**は楼楼または関関系統、下線は華陽・溢水・楼楼・関関系統が混在

留意事項

- 令和 8 年実績は 23 ペアから 33 羽。

5 順化訓練の概要

第 1 回能登地域におけるトキ放鳥に向けた第 33 回順化訓練

- ・ 3 月 3 日 (火) より、1 歳から 13 歳のオス 11 羽メス 7 羽の計 18 羽の順化訓練を順化ケージで開始した。訓練個体 20 羽のうち体重の軽かったメス 2 羽は一旦別ケージに収容し、採餌を確認後、3 月 5 日 (木) から順化ケージでの訓練を開始した。
- ・ 4 月 14 日 (火) に体調不良を確認したオス 1 羽を捕獲し、順化訓練を中止した。当該個体は、4 月 12 日 (日) より、ふらつき飛翔旋回や神経症状を呈していた。
- ・ 5 月 12 日 (火) に体調不良を確認したオス 1 羽を捕獲し、順化訓練を中止した。当該個体は、島内で強風が吹いた 5 月 4 日 (月) に飛翔中の衝突などがあったのかふらつき歩行などが認められ、その後 5 月 11 日 (月) も飛翔時植栽に接触した後ふらつき歩行があり、翌日 (5 月 12 日) 後弓反張を確認した。
- ・ 5 月 30 日 (土) に 18 羽を捕獲後、石川県羽咋市に移送し、5 月 31 日 (日) に 10 羽を仮設ケージに入れ、8 羽をハードリリース方式で放鳥した。
- ・ 6 月 14 日 (日) に 10 羽を石川県羽咋市の仮設ケージからソフトリリース方式により放鳥した。
- ・ 全体を通して概ねスケジュール通りに訓練を実施した。

第 2 回能登地域におけるトキ放鳥に向けた第 34 回順化訓練

- ・ 6 月 25 日 (木) より、1 歳から 13 歳のオス 6 羽メス 6 羽の計 12 羽の順化訓練を順化ケージで開始した。
- ・ 7 月 19 日 (日) に体調不良を確認したメス 1 羽を捕獲した。当該個体は、同日、開口

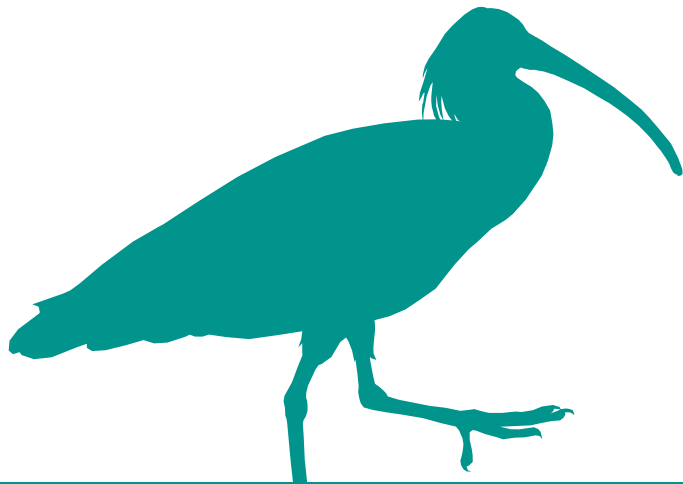
呼吸及び神経症状を確認したため捕獲したところ、自発呼吸なく心肺停止状態で、処置を施したが死亡を確認した。

- ・ 9 月 19 日（土）に全羽一斉飛翔の際にネットに衝突して地面に落下したメス 1 羽をすぐに捕獲したが、死亡を確認した。
- ・ 9 月 24 日（木）に 10 羽を捕獲、全羽を石川県中能登町へ移送し、9 月 25 日（金）に仮設ケージに入れた。
- ・ 9 月 29 日（火）にオス 1 羽が体調不良によりいしかわ動物園に収容された。
- ・ 10 月 7 日（水）に仮設ケージから 9 羽をソフトリリース方式により放鳥した。
- ・ 全体を通して概ねスケジュール通りに訓練を実施した。

順化ケージの環境整備（採餌訓練の充実に向けた取組み）

- ・ 本州放鳥を迎えるにあたり、順化ケージをより野生下の環境に近づけてケージ内の生物（昆虫や両生類等）を増やし、トキの採餌訓練を充実させるための取り組みを行った。
- ・ 2025 年秋頃から順化ケージ内の池や敷地内の土壌改良を行い、池内に水草の移植、カエルの卵及びオタマジャクシの放流を行ったほか、土壌にミミズを追加した。
- ・ 順化ケージ内の生物環境整備や昆虫等の生態について職員の知見を深めるため、2025 年 11 月 10 日（月）に専門的知識を有する講師を招いて研修会を開催した。
- ・ 順化ケージ内の生物種を充実させるため、2026 年 7 月 31 日（金）に佐渡自然保護官事務所と合同で夜間の水田調査を行い、生息する生物（27 種 345 匹）を採取して翌日順化ケージ内に放した。
- ・ 今後も、野生下と同様に多様な生物が生息する中でトキが採餌訓練を行えるよう環境整備を進めていく。

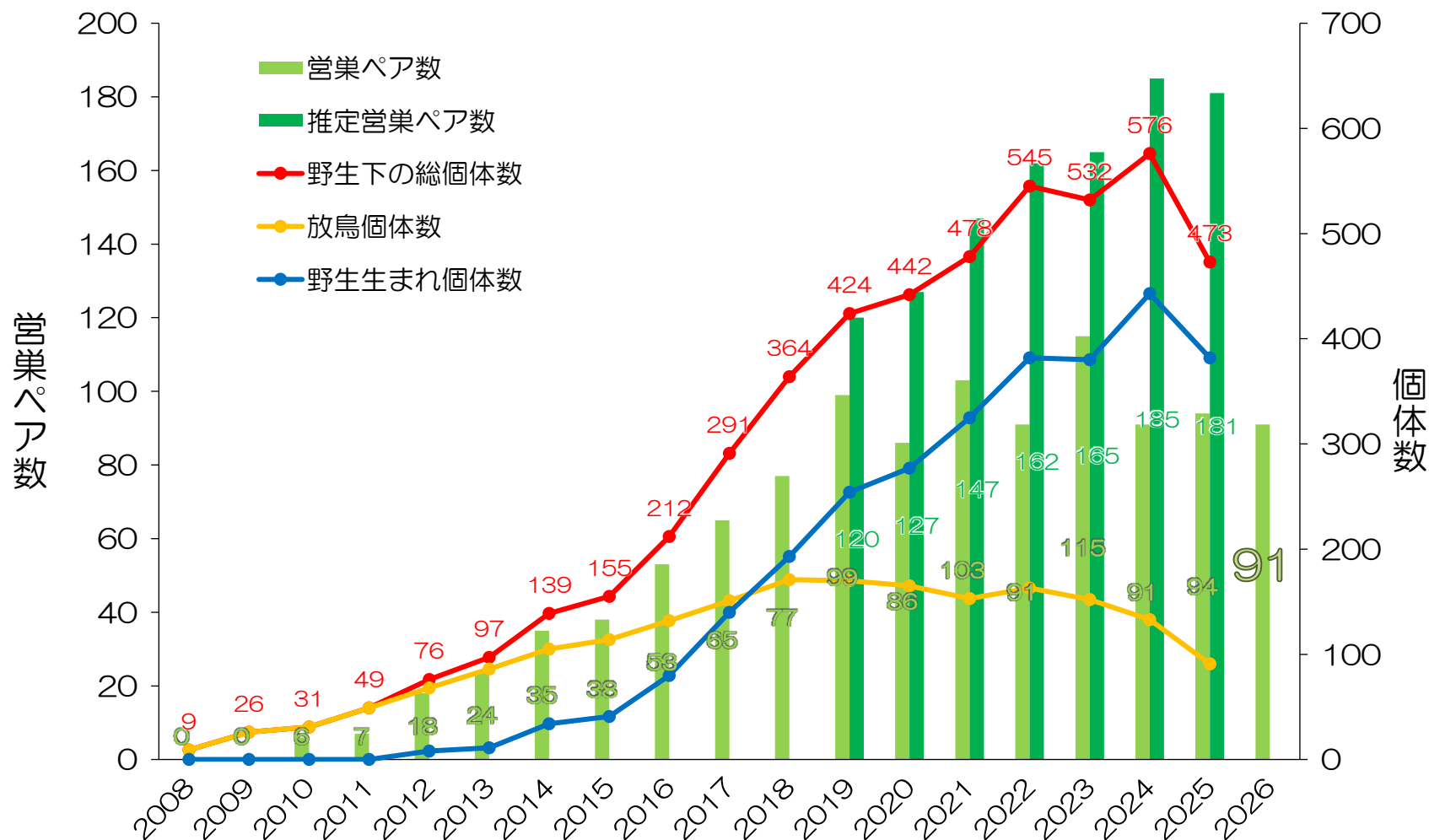
野生下のトキの繁殖状況について



- (1) 野生下における繁殖結果概要
- (2) 繁殖失敗の要因について
- (3) ヒナへの足環装着結果
- (4) 野生下で初となる関関系統の繁殖成功について

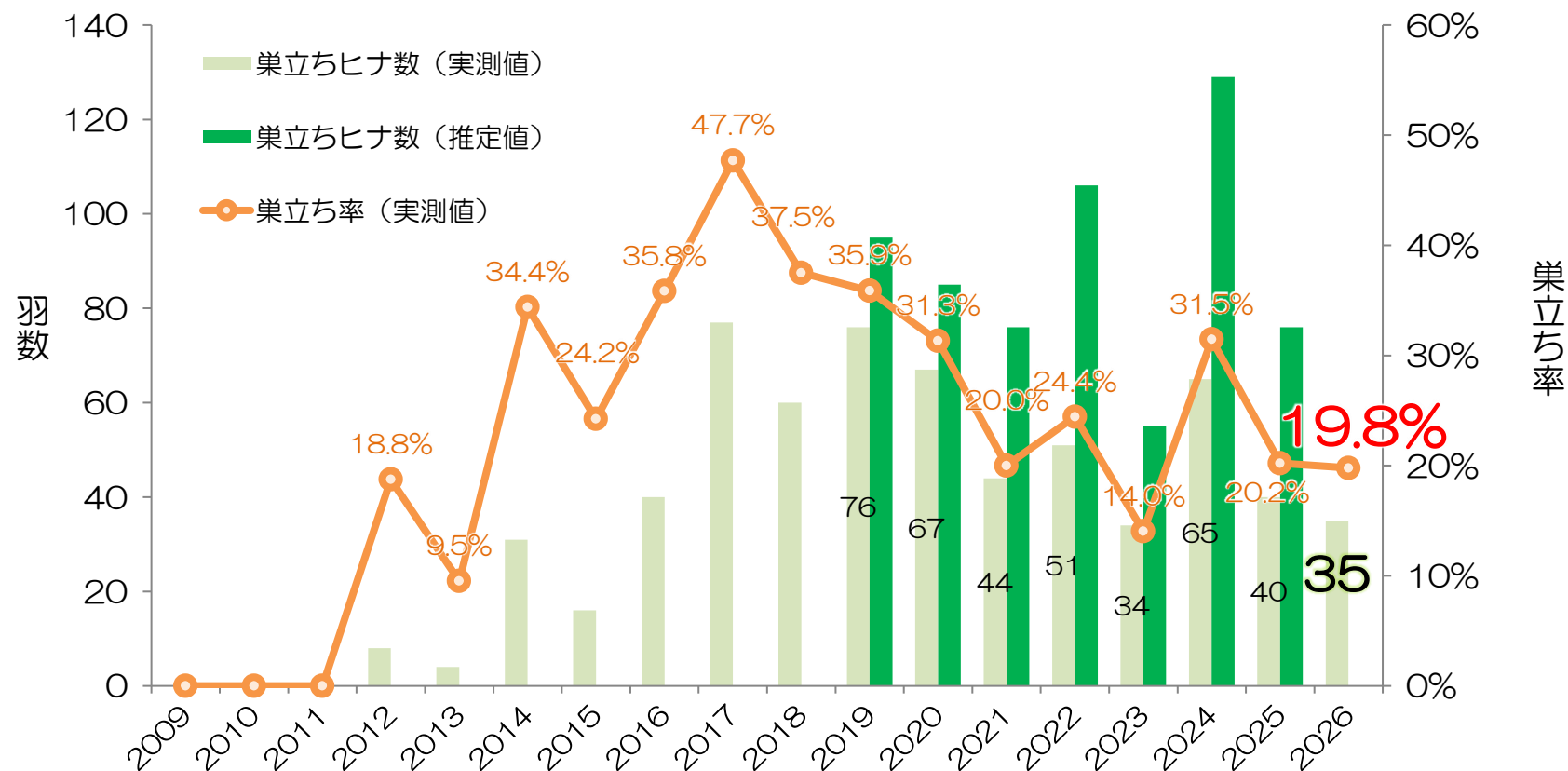
営巣ペア数

資料2

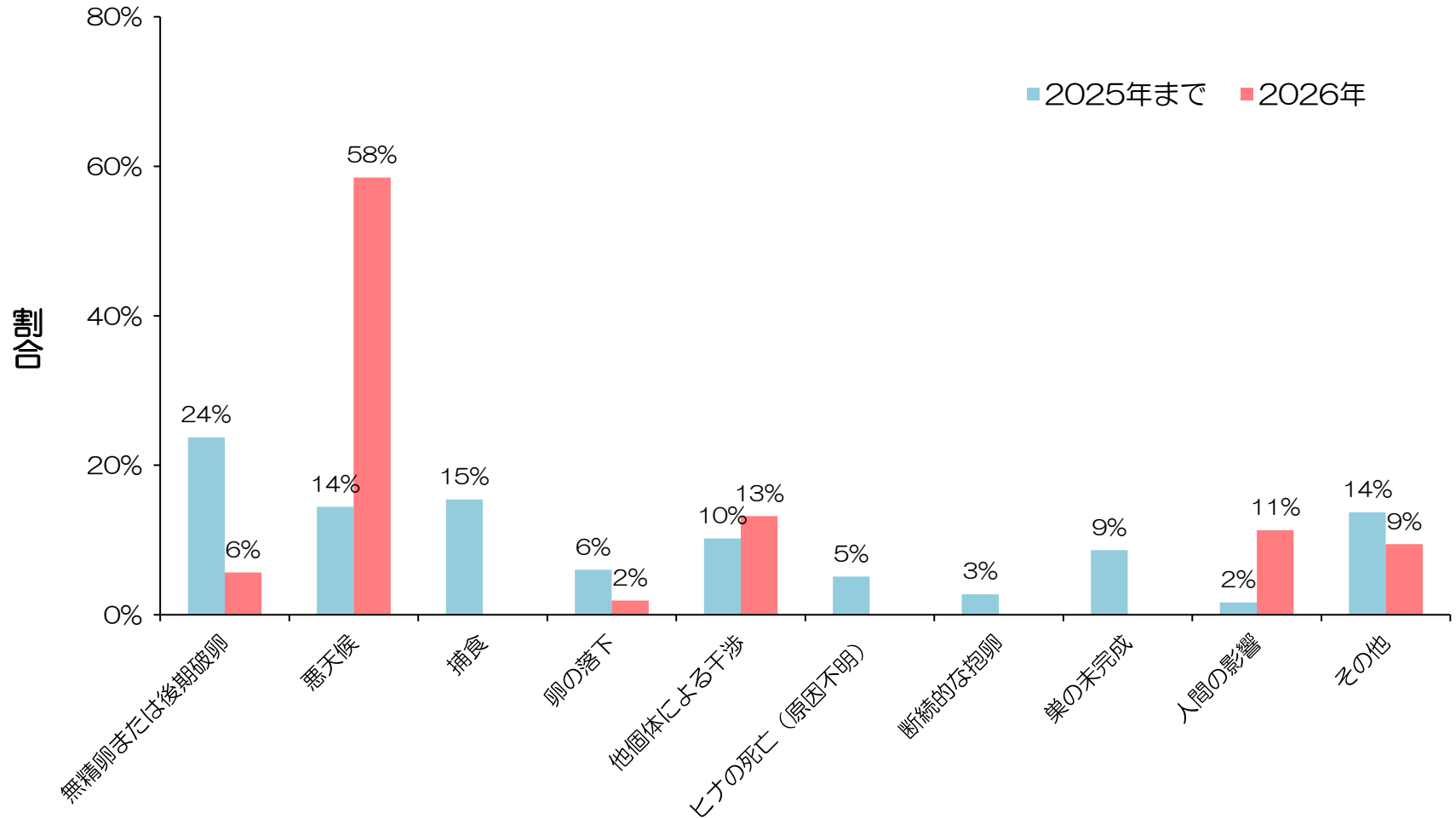


91ペアの繁殖への参加が確認できた（把握ペア数はほぼ例年通り）

※2019年以降は統合個体群モデルによる巣立ちヒナ数の推定値も並記
 ※2026年の推定値は12月末に算出予定

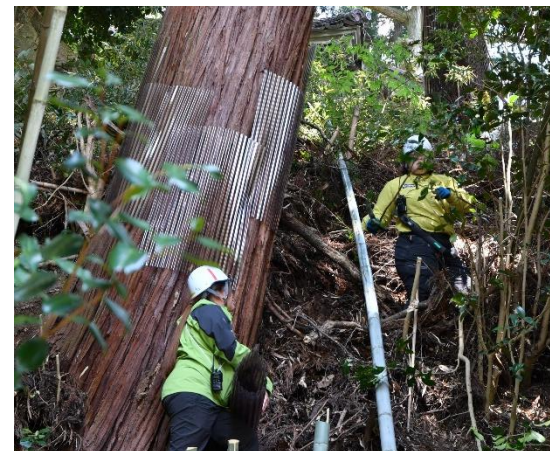


今年は18ペアから35羽の巣立ちを確認
巣立ち率は19.8% (実測値) と昨年から横ばい



過年度と比較すると、確認された繁殖失敗要因として**悪天候**が高い割合となった
また**人間の影響**として、祭りや草刈りが確認された

今年は14ペアのヒナ31羽に足環を装着し、うち27羽は巣立ちまで確認



野生下で初となる関関系統の繁殖成功

資料2

金井地区で、関関のひ孫に当たるヒナ2羽が誕生

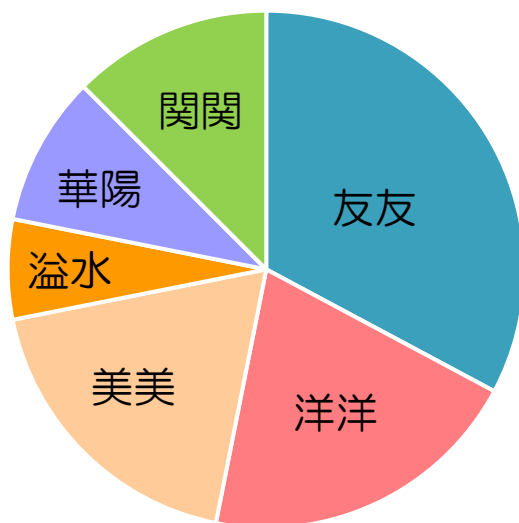
■オス親 No. 498 (関関系統)

出雲生まれ・4歳♂・第28回放鳥 (2023初夏、順化ケージ)

■メス親 No. 531 (溢水・華陽系統)

長岡生まれ・3歳♀・第30回放鳥 (2024初夏、小野見)

それぞれのヒナに E97 および E98 の足環を装着



当該ヒナへのファウンダーの遺伝的寄与

楼楼以外の全てのファウンダーから
遺伝子を受け継いでいる



足環装着作業時の巢内の様子



巣立ち後に田んぼを歩くE97

令和8年度能登地域における トキの放鳥結果について

石川県生活環境部自然環境課トキ共生推進室

1 能登地域における第1回放鳥（羽咋市）について

本年5月31日、羽咋市で本州初のトキ放鳥を実施



1 能登地域における第1回放鳥（羽咋市）について

○第1回目の放鳥方法について

- ・**ハードリリース方式**（8羽）と**ソフトリリース方式**（10羽）を併用
- ・佐渡の野生復帰ステーションで**約3カ月の順化訓練**を行ったトキを羽咋市へ移送
- ・**ハードリリース方式**は、**放鳥箱から放鳥**（5/31）
- ・**ソフトリリース方式**は、**放鳥ケージで2週間、周囲の環境に慣れさせてから放鳥**（6/14）

放鳥の約3カ月前～

佐渡の施設で**順化訓練**



放鳥前日

羽咋市へトキを移送

5月31日

ハードリリース
(放鳥箱から放鳥)



放鳥ケージで飼育



6月14日

ソフトリリース
(ケージの扉開放)



1 能登地域における第1回放鳥（羽咋市）について

○ケージ内での飼育期間の管理状況

○トキの飼育管理

作業者：いしかわ動物園の獣医師及び飼育員

作業内容：①放鳥ケージへの放鳥個体（10羽）の搬入
②放鳥個体の健康観察
③ドジョウ（生体）の給餌、天敵の痕跡確認

＜結果の概要＞

- ・10羽とも採餌を確認、異常行動は確認されず
- ・電気柵付近に地面を掘った痕跡や動物の糞が確認
- ・ケージ内への動物の侵入は無し



ケージ搬入の様子

給餌の様子

○ケージ周辺の対人警備

作業者：警備業者の警備員

作業内容：放鳥ケージ設置場所周辺に、関係者以外の者の接近及び侵入を抑制

＜結果の概要＞

- ・飼育中に数名のケージ接近を確認し、声掛けを実施
- ・トキが一時的に飛翔したものの、健康面の影響は無し

○ソフトリリース方式の放鳥結果について

○トキ放鳥（ソフトリリース方式）

作業者：いしかわ動物園の獣医師及び飼育員

放鳥羽数：10羽（メス8羽、オス2羽）

作業内容：6月14日9:30～ ケージ開放

＜ソフトリリース個体の飛翔経過＞

11:53 1羽（No.569）
13:01 3羽（No.577, No.582, No.583）
13:06 2羽（No.574, No.579）
13:34 1羽（No.584）
13:41 1羽（No.580）
14:20 1羽（No.581）
15:02 1羽（No.578）



ケージ放鳥口の開放の様子

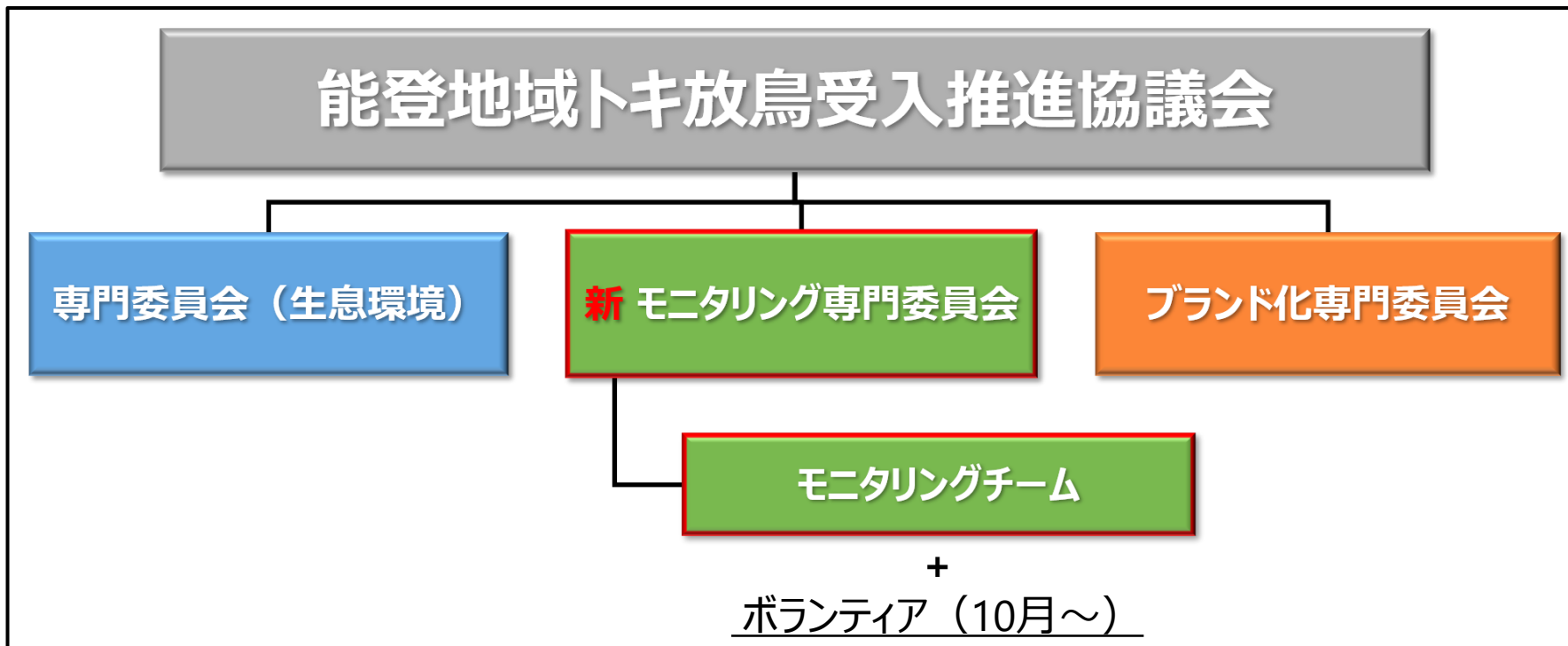


放鳥の様子

2 放鳥個体の生息状況について

○モニタリングの実施状況について

- ・県や市町及び専門家からなる**チーム体制を構築し、モニタリングを開始**（6月～）
- ・今後の個体数の増加に備え、**ボランティアなども活用した体制に拡充**（10月～）
- ・トキの様子を広く周知するため、調査結果の一部を紹介する「**のとっきー通信**」を発行（毎月）



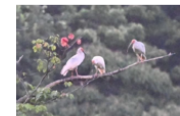
本県のモニタリング体制

のとっきー通信 ～トキの観察ノート～

羽咋市でのハードリリース方式の放鳥から早2か月半、ソフトリリース方式による放鳥から2か月がたちました。放鳥直後は、頻りに長い距離を移動する個体もいましたが、最近は、同じ場所で過ごす個体が増えてきました。この夏の猛暑も、なんとか乗り切ってほしいと願っています。

それでは、7月のモニタリング調査の結果の一部をご紹介します。6月時点ではバラバラに暮らしていたトキたちですが、一部で、2、3羽の個体が行動を共にする様子も見られるようになってきました。

そのうち、かほく市のNo.569（2歳・オス）、No.573（2歳・オス）、No.584（1歳・メス）は普段から同じ場所で暮らしています（写真①）。また、羽咋市のNo.577（1歳・メス）とNo.579（1歳・メス）の2羽は、一緒にねぐらから出てきますが、田んぼに降りると、少し離れて餌を食べたり、たまに合流して、一緒に過ごしたりしています（写真②）。



写真① かほく市の3羽のトキ（No.573 569 584）



写真② 羽咋市の2羽のトキ（No.577 579）

これから、秋の放鳥も中能登町で実施予定ですが、羽咋市で放鳥した個体とも交流し、仲良く過ごしてほしいですね。

ところで、モニタリング調査で撮影した写真は、まるでトキに近づいて写真を撮影しているかのように見えますが、実は、およそ150メートル以上離れた車の中から、望遠レンズを使って撮影しています。



のとっきー通信
（モニタリングで得られた生息状況等を公表）



2 放鳥個体の生息状況について

○第1回放鳥個体一覧及びモニタリングによる確認状況

(令和8年9月末時点)

放鳥回	放鳥方法	個体番号	性別	年齢	最終確認日	確認された場所 ※（ ）は9月末のGPS情報
第1回	ハードリリース	566	オス	12	2026/08/24	富山県（同左）
		568	オス	2	2026/06/25	富山県（金沢市）
		570	オス	2	2026/08/28	富山県（同左）
		571	オス	2	2026/9/30	金沢市（同左）
		572	オス	2	2026/09/16	宝達志水町（羽咋市）
		573	オス	2	2026/09/30	かほく市（同左）
		575	オス	2	2026/07/15	富山県（同左）
		576	オス	1	2026/09/14	富山県（同左）
	ソフトリリース	569	オス	2	2026/09/30	かほく市（同左）
		574	オス	2	2026/09/17	羽咋市（同左）
		577	メス	1	2026/09/17	羽咋市（同左）
		578	メス	1	2026/09/17	志賀町（同左）
		579	メス	1	2026/09/17	羽咋市（同左）
		580	メス	1	2026/09/16	宝達志水町（羽咋市）
		581	メス	1	2026/09/15	志賀町（同左）
		582	メス	1	2026/09/16	金沢市（同左）
		583	メス	1	2026/09/17	志賀町（同左）
		584	メス	1	2026/09/30	かほく市（同左）



2 放鳥個体の生息状況について

○目撃情報の収集状況について

- ・専用フォームを通じ**目撃情報を収集（9月末時点：292件）**
- ・得られた情報を取りまとめ、能登地域トキ放鳥受入推進協議会**HPで週に1回公表**

能登地域
トキ放鳥受入推進協議会

トキの目撃情報入力フォーム

目撃情報入力フォーム

お手数ですが、**必須**とされている項目は必ずご回答ください。なお、観察する際は**観察マナー**を遵守してください。

いつ

必須

年/月/日

時刻： --:--

どこで

必須

石川県

目印となるもの

トキがいた位置（GPS位置情報）

※トキが見られたおおよその場所をタッチしてください。

「目撃情報入力フォーム」入力画面

期間	目撃情報件数	県内でトキが活動していたと思われる場所
6月分	105	七尾市、羽咋市、かほく市、白山市、津幡町、志賀町、宝達志水町、中能登町
7月分	86	七尾市、羽咋市、かほく市、白山市、津幡町、志賀町、宝達志水町、中能登町
8月分	47	金沢市、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、白山市、志賀町、宝達志水町、中能登町
8月28日 ～ 9月3日	5	金沢市、羽咋市、志賀町
9月4日～ 9月10日	14	七尾市、羽咋市、志賀町
9月11日 ～ 9月17日	14	金沢市、内灘町、志賀町、宝達志水町、中能登町
9月18日 ～ 9月24日	21	羽咋市、かほく市、志賀町、宝達志水町

目撃情報の共有内容（能登地域トキ放鳥受入推進協議会HPより）



2 放鳥個体の生息状況について

○観察マナーの啓発について

- ・トキの定着には**観察マナー**の徹底が必要
→観察マナー動画やリーフレット・ポスター
など、様々な媒体等を活用し、観察
マナーを周知



観察マナー動画



学校での出前講座

○トキの餌場づくりについて

- ・トキの餌場づくりに取り組む米づくりの認証
制度を創設
- ・認証面積は3,296ha
(能登のR7水稻作付面積 9,048haの 4 割弱に相当)



米袋に認証マークを表示
(R8年産の米袋から)

区 分	化学肥料・農薬 3 割減	化学肥料・農薬 5 割減
江の設置	いずれか一つ 以上選択	いずれか一つ 以上選択
魚道の設置		
水張水田の設置		必須
冬期湛水		必須
畦畔除草剤不使用	—	年1回以上
生き物調査		

認証マークと認証基準

3 能登地域における第2回放鳥（中能登町）について

- ・中能登町でのトキ放鳥を10月7日に実施
- ・放鳥は、ソフトリリース方式で実施
- ・放鳥の様子は、県公式YouTubeで公開

放鳥場所 中能登町春木地区周辺

放鳥開始日 10月7日（水）

放鳥方法 ソフトリリース方式

その他 放鳥開始日に、中能登町主催の放鳥式典を開催



中能登町に設置した放鳥ケージの外観



トキ放鳥PRキャラクター「のとっきー」

能登地域における 放鳥トキの生息状況について ～衛星追跡データから～

（追跡データ期間：2026年5月31日～8月31日※一部9月30日まで）

- ・ 環境省自然環境局野生生物課 希少種保全推進室
- ・ 一般財団法人 自然環境研究センター



目次

1. 追跡機器の選定から装着まで	3
2. 追跡機器の測位スケジュール等の設定	5
3. 放鳥後～2日後のトキの分布	6
4. 放鳥トキ飛来地域及び各個体の行動圏	8
5. 放鳥トキの定着（滞在）状況	10
6. 個体の合流状況	12
7. 能登地域における採食地及びねぐら	13
8. 水害後のトキの状況	18
9. No.571個体について	19

1. 追跡機器の選定から装着まで

①放鳥トキの追跡機器の検討

トキの生態や形態、機器の位置情報の正確性、データ取得の確実性、追跡の持続性、動物福祉及び合法性を考慮。

②有識者ヒアリング

☞ GNSS-Cellular方式の足環型データロガー（以下、GNSS足環という）を仮採用。

鳥の位置を米国GPS等のGNSS（Global Navigation Satellite System）によって測位し、位置データをモバイルネットワーク通信（4G回線等）によって遠隔で取得する方式。

☞ トキの脛部・ふしよ・ひざ関節部の太さ等の計測値を収集し、足環の内径を決定。

③飼育下トキGNSS足環装着試験

佐渡トキ保護センターにおいて飼育個体を対象に各種試験を行い、ソーラー給電成績やGNSS測位成績の結果や鳥の安全性等からGNSS足環の実用性を評価。また、装着部位を検討。

④有識者ヒアリング

☞ 放鳥トキの追跡機器としてGNSS足環を採用。

装着部位は脛部とした。

⑤順化ケージにおける訓練開始時にGNSS足環を装着



1. 追跡機器の選定から装着まで



2. 追跡機器の測位スケジュール等の設定

- GNSS測位はバッテリー電圧に応じて頻度が増減する順応的な設定とした。
- 4G回線によるデータ通信は初期設定では電圧対応式で1日1-2回としたが、その後1日1回に変更。また、時間を20時→早朝7時に変更。
(モニタリングに活用するため、6時時点の位置情報が1時間後に把握できるよう)

表1 GNSS測位及びデータ通信スケジュール

時刻 (JST)	GNSS測位スケジュール					データ通信スケジュール	
	電圧3.8V 未満	電圧3.8V 以上	電圧3.9V 以上	電圧4.0V 以上	電圧4.2V 以上	電圧4.0V 未満	電圧4.0V 以上
0:00							
1:00							
2:00							
3:00							
4:00							
5:00							
6:00							
7:00			○	○	○		
8:00							
9:00						○	
10:00					○		
11:00							
12:00				○	○		
13:00							
14:00					○		
15:00							
16:00				○	○		
17:00							
18:00							
19:00							
20:00	○		○	○	○		
21:00						○	○
22:00							
23:00							
回数	0	1	2	4	6	1	2

時刻 (JST)	GNSS測位スケジュール					データ通信スケジュール	
	電圧3.8V 未満	電圧3.8V 以上	電圧3.9V 以上	電圧4.0V 以上	電圧4.2V 以上	電圧4.0V 未満	電圧4.0V 以上
0:00							
1:00							
2:00							
3:00							
4:00							
5:00							
6:00	○		○	○	○	○	○
7:00							
8:00							
9:00					○		
10:00							
11:00							
12:00				○	○		
13:00							
14:00							
15:00				○	○		
16:00							
17:00					○		
18:00							
19:00							
20:00			○	○	○		
21:00							
22:00							
23:00							
回数	0	1	2	4	6	1	1

3. 放鳥後～2日後のトキの分布（ハードリリース）

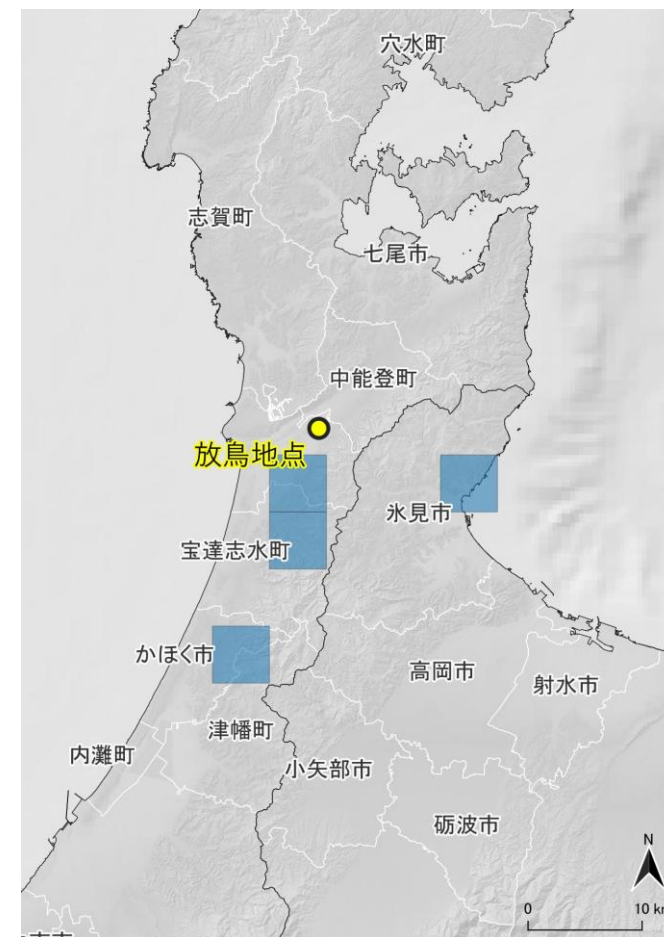
- ・放鳥当日は放鳥地周辺に留まる個体が比較的多かった一方、翌日以降は多くの個体が他所へ移動した。



当日 2026/5/31
(n=7)



1日後 2026/6/1
(n=4)



2日後 2026/6/2
(n=4)

図1 20時に測位された個体の位置（≒ねぐら位置、5kmメッシュ）

3. 放鳥後～2日後のトキの分布（ソフトリリース）

- ・放鳥当日から各地へ分散した一方、翌日以降も放鳥地周辺に留まる個体はハードリリースに比べて多かった。



当日 2026/6/14
(n=9)



1日後 2026/6/15
(n=7)



2日後 2026/6/16
(n=7)

図2 20時に測位された個体の位置（≒ねぐら位置、5 kmメッシュ）

4. 放鳥トキ飛来地域及び各個体の行動圏

- 2026年8月末時点で、石川県・富山県の20市町に飛来履歴が確認されている。

表2 飛来が確認された自治体とトキの個体数

県名	行政区域	飛来個体数
石川県	金沢市	3
	七尾市	5
	小松市	1
	珠洲市	1
	羽咋市	12
	かほく市	5
	白山市	1
	能美市	1
	津幡町	4
	志賀町	4
	宝達志水町	6
	中能登町	7
	穴水町	1
	能登町	1
富山県	高岡市	5
	氷見市	7
	砺波市	1
	小矢部市	2
	南砺市	1
	射水市	1

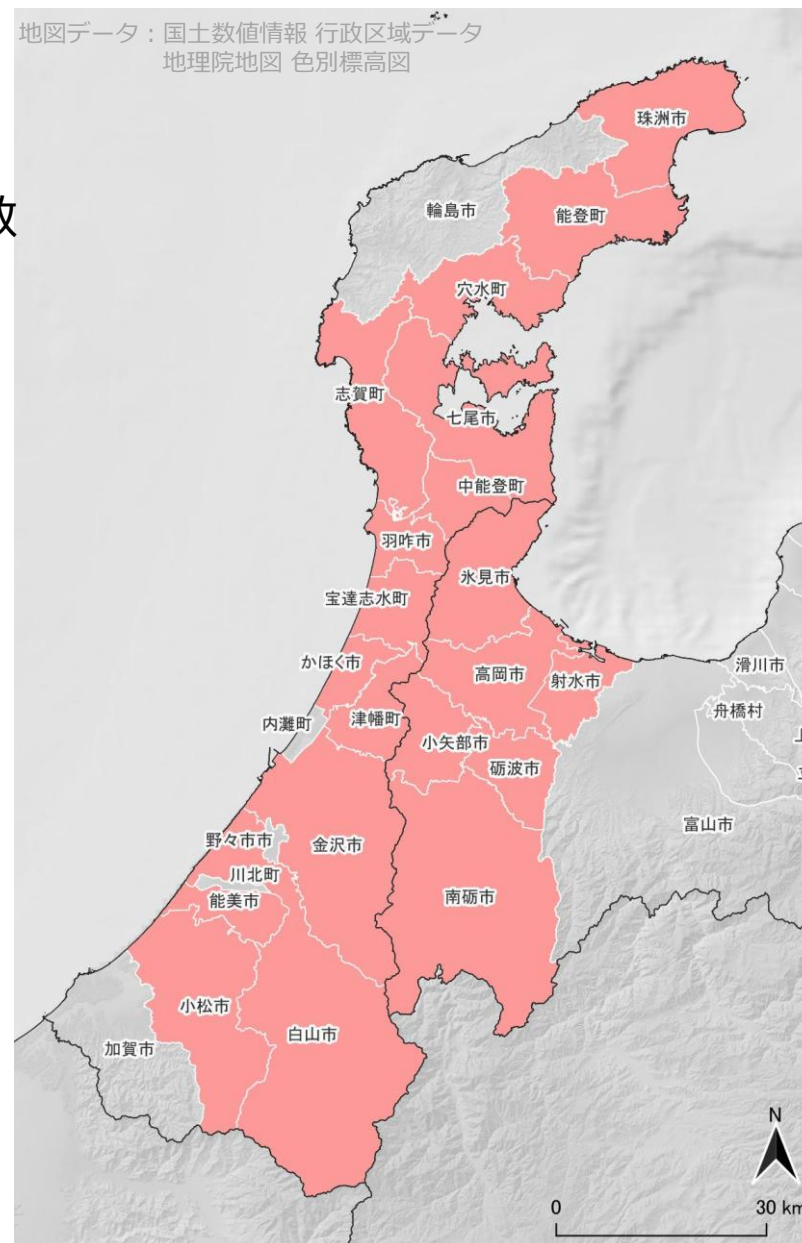
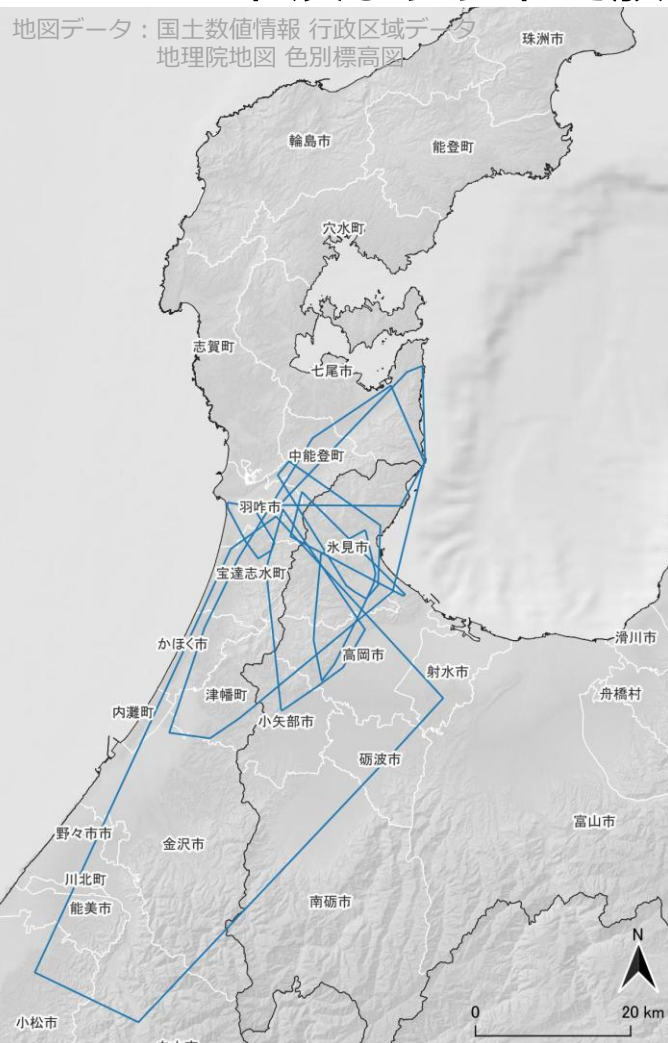


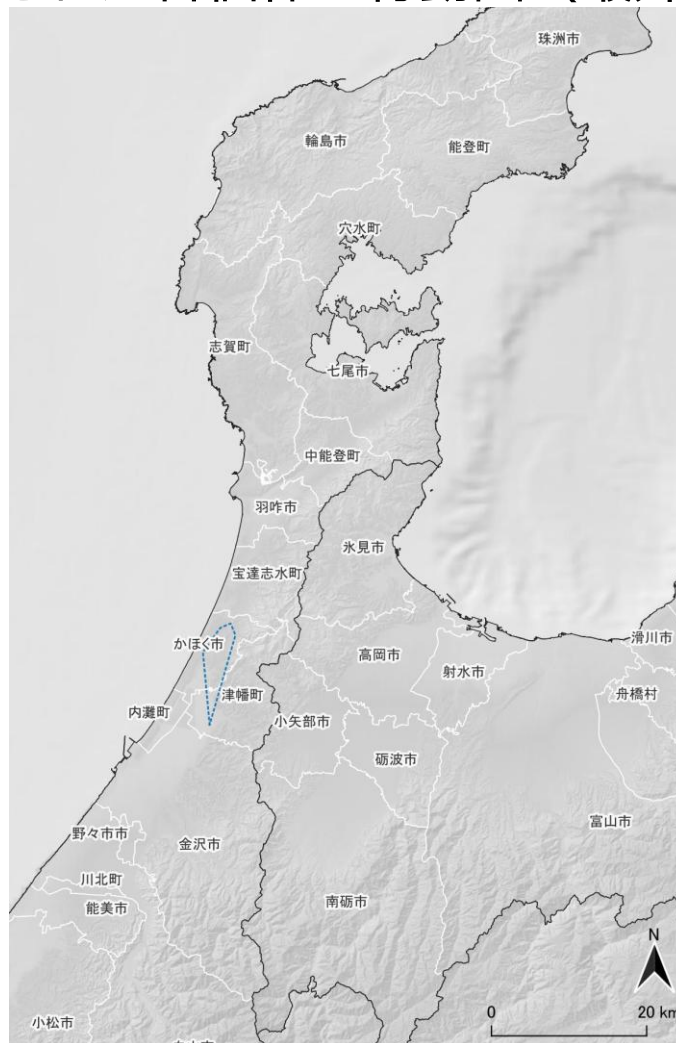
図3 飛来が確認された地域

4. 放鳥トキ飛来地域及び各個体の行動圏

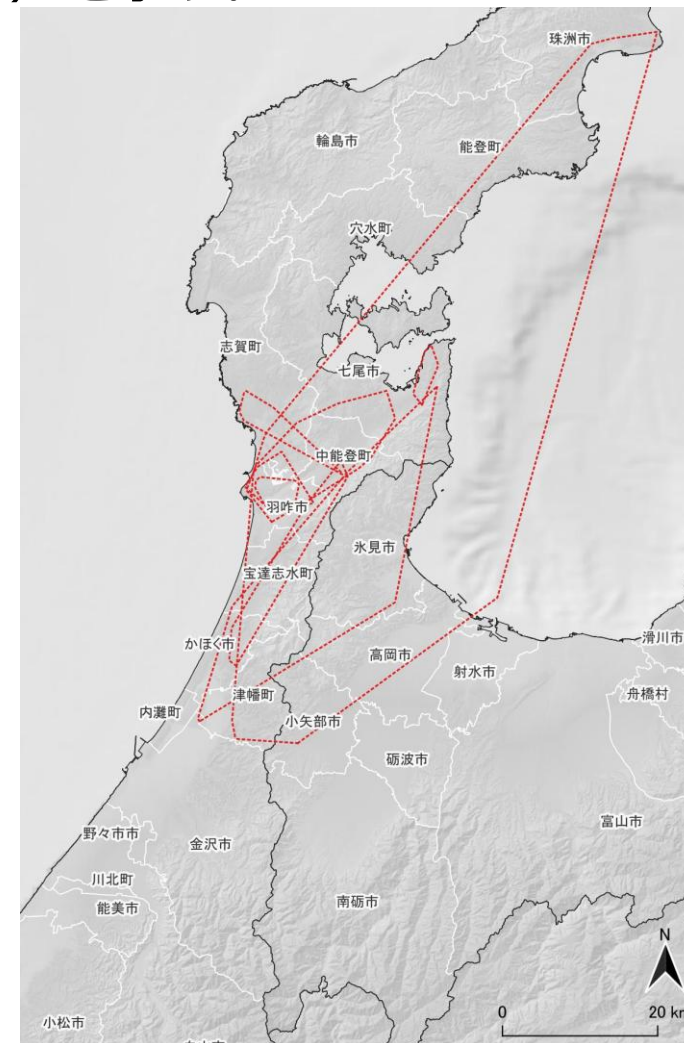
- ・ ハード及びソフトで放鳥された各個体の行動圏（最外郭）を示す。



ハードリリース・オス
(8個体)



ソフトリリース・オス
(2個体) うち一羽は非表示



ソフトリリース・メス
(8個体)

図4 放鳥された各個体の行動圏（最外郭）

5. 放鳥トキの定着（滞在）状況

- ・ 初期定着までの推定日数は、最短0日、最長35日、平均11日であった。
- ・ 8月末まで継続して同じ地域に在留する個体も確認された。

表3 個体ごとの初期定着までの推定日数

放鳥方法	放鳥番号	性別	放鳥時 年齢	初期定着まで の推定日数	初期定着地域	備考
ハードリリース	#566	オス	12歳	22	高岡市	
	#568	オス	2歳	33	氷見市	初期は欠測が多く空白期間あり。
	#570	オス	2歳	18	白山市	
	#571	オス	2歳	-	-	欠測が多く情報不足。
	#572	オス	2歳	1	宝達志水町	
	#573	オス	2歳	21	かほく市	
	#575	オス	2歳	4	高岡市	
	#576	オス	1歳	3	七尾市	
ソフトリリース	#569	オス	2歳	1	かほく市	
	#574	オス	2歳	0	羽咋市	
	#577	メス	1歳	1	羽咋市	
	#578	メス	1歳	21	中能登町	
	#579	メス	1歳	5	羽咋市	
	#580	メス	1歳	1	七尾市	
	#581	メス	1歳	1	志賀町	
	#582	メス	1歳	35	氷見市	
	#583	メス	1歳	2	津幡町	
	#584	メス	1歳	11	かほく市	

※本資料における定着の定義
日中の測位点と夜間の測位点（ねぐらと見なす）が近接しており、それらが概ね一週間以上継続的に特定地域に位置している状態をここでは定着とした。

※なお「本州等におけるトキの放鳥の方針」資料に記載の「定着の定義」とは異なる。

5. 放鳥トキの定着（滞在）状況

- ・ 早期に定着した個体があった一方で、定着までに比較的時間を要した個体も確認された。

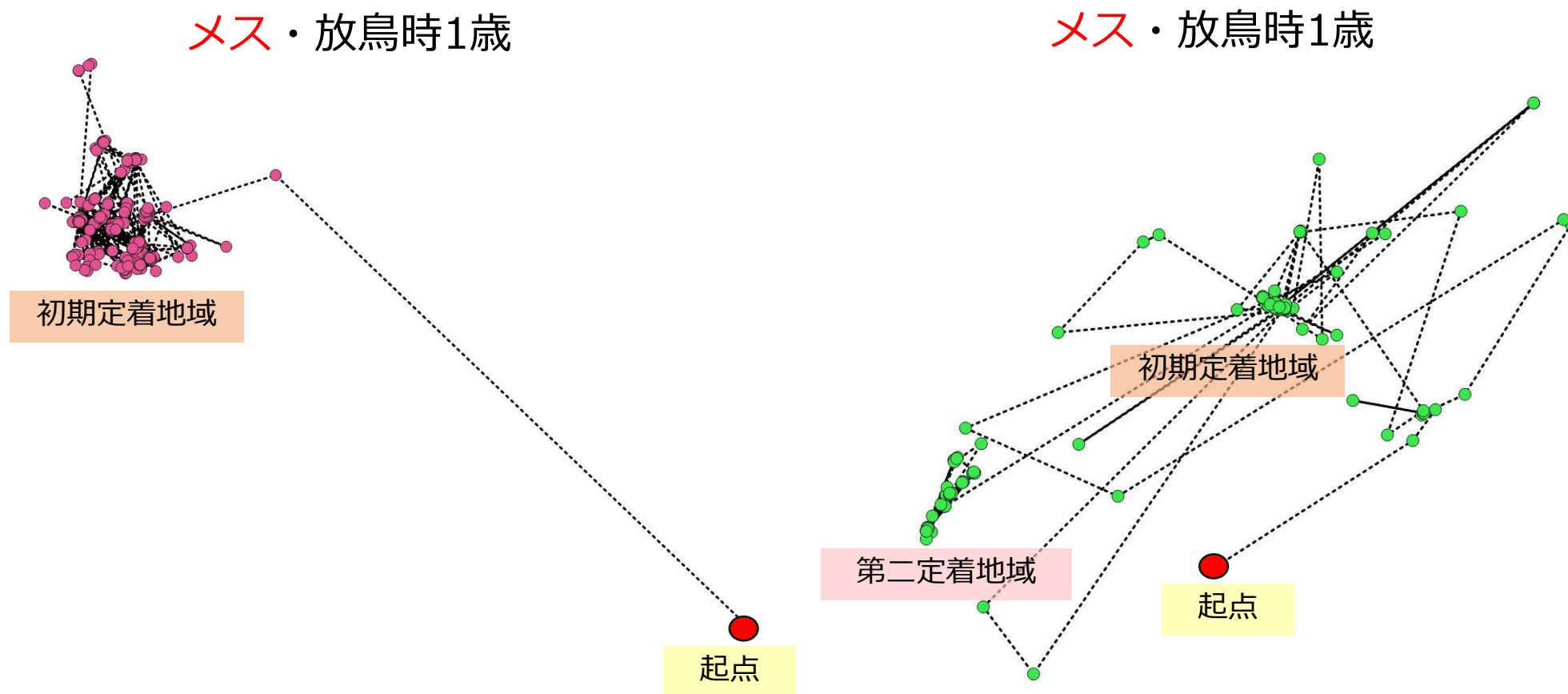


図5 早期に定着した個体（左）と定着まで比較的時間がかかった個体（右）の例

6. 個体の合流状況

・ 2026年9月末現在、2-3羽、2-4羽及び2羽で行動をとともにする事例が確認されている。最初に合流が確認されるまでの日数は、ソフトリリースから11日後（ハードリリースから25日後）であった。

① #573（オス・放鳥時2歳） #584（メス・放鳥時1歳） #569（オス・放鳥時2歳）

2026年6月25日～9月30日のうち94日、かほく市

#569は7月10日から合流

② #577（メス・放鳥時1歳） #579（メス・放鳥時1歳） #580（メス・放鳥時1歳）
#574（オス・放鳥時2歳）

2026年7月1日～9月30日のうち92日、羽咋市

#580は9月18日から、#574は9月21日から合流

③ #578（メス・放鳥時1歳） #583（メス・放鳥時1歳）

2026年8月26日～9月30日のうち22日、羽咋市・志賀町

.....

・ そのほか、一時のみ合流し、再び別れた事例も確認された。

● #573（オス・放鳥時2歳） #580（メス・放鳥時1歳）

2026年6月29日の単日、七尾市

● #572（オス・放鳥時2歳） #580（メス・放鳥時1歳）

2026年9月15・16日の2日間、宝達志水町

注）同一日時のGNSS測位点の水平距離及び前後の位置関係を考慮し、複数個体が同行していたと推定される事例を抽出した。

7. 能登地域における採食地及びねぐら

- ・採食地と推定される測位点から林縁までの距離を以下の通り計測し、計測値を次頁に示す。

【計測方法】8月末までの有効測位点（ $n=4165$ ）から、日中の測位点（ $n=3178$ ）を抽出。さらに移動中ではない（時速5km未満の）測位点（ $n=3092$ ）を抽出。現存植生図2024のGISデータ（G空間情報センター）と重ね、属性の植生自然度区分を参照しトキの主な採食地である農耕地（水田・畑）に該当する測位点（ $n=2420$ ）を抽出。

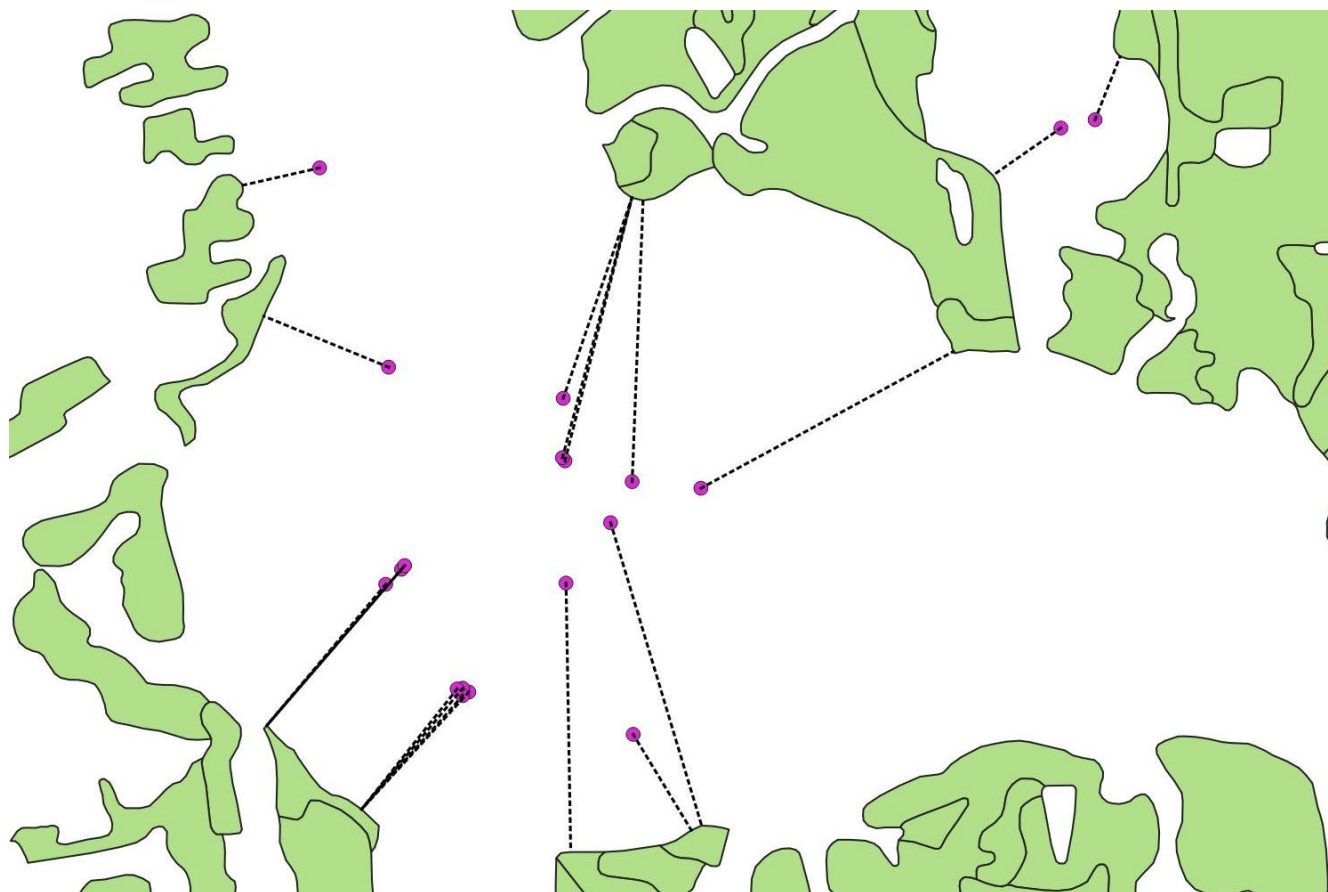


図6 放鳥トキGNSS測位点から林縁までの距離の計算例

7. 能登地域における採食地及びねぐら

- 谷戸田のような樹林地に近接した水田等の農地で採食する個体が多かった。一方、開放的な空間で採食することが多い個体も確認された。

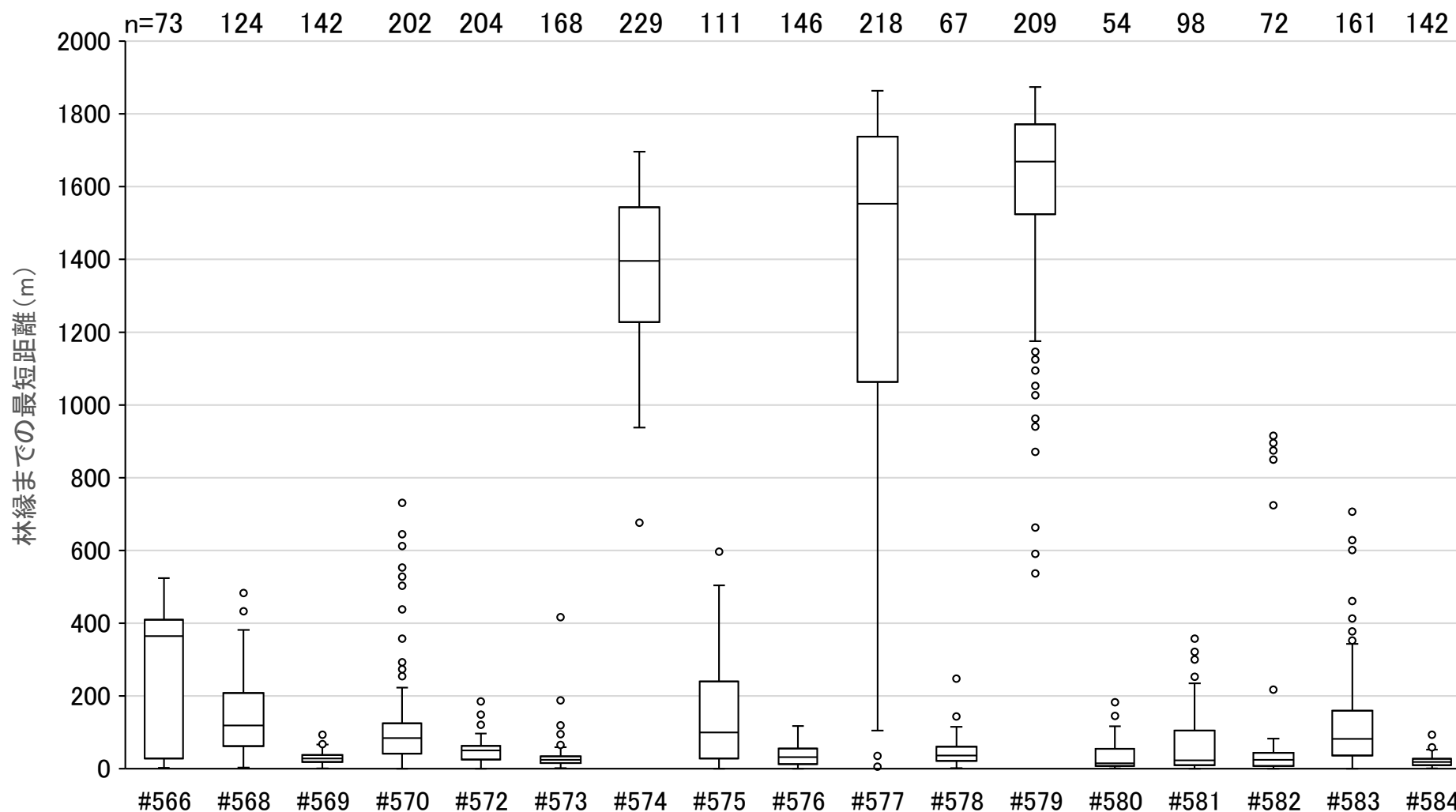


図7 放鳥トキの推定採食地から林縁までの距離

7. 能登地域における採食地及びねぐら

- 放鳥後～8月末の期間においては、ねぐらから5km以内で採食することが多く、うち9個体についてはねぐらから3km以内で採食することが多いと推定された。

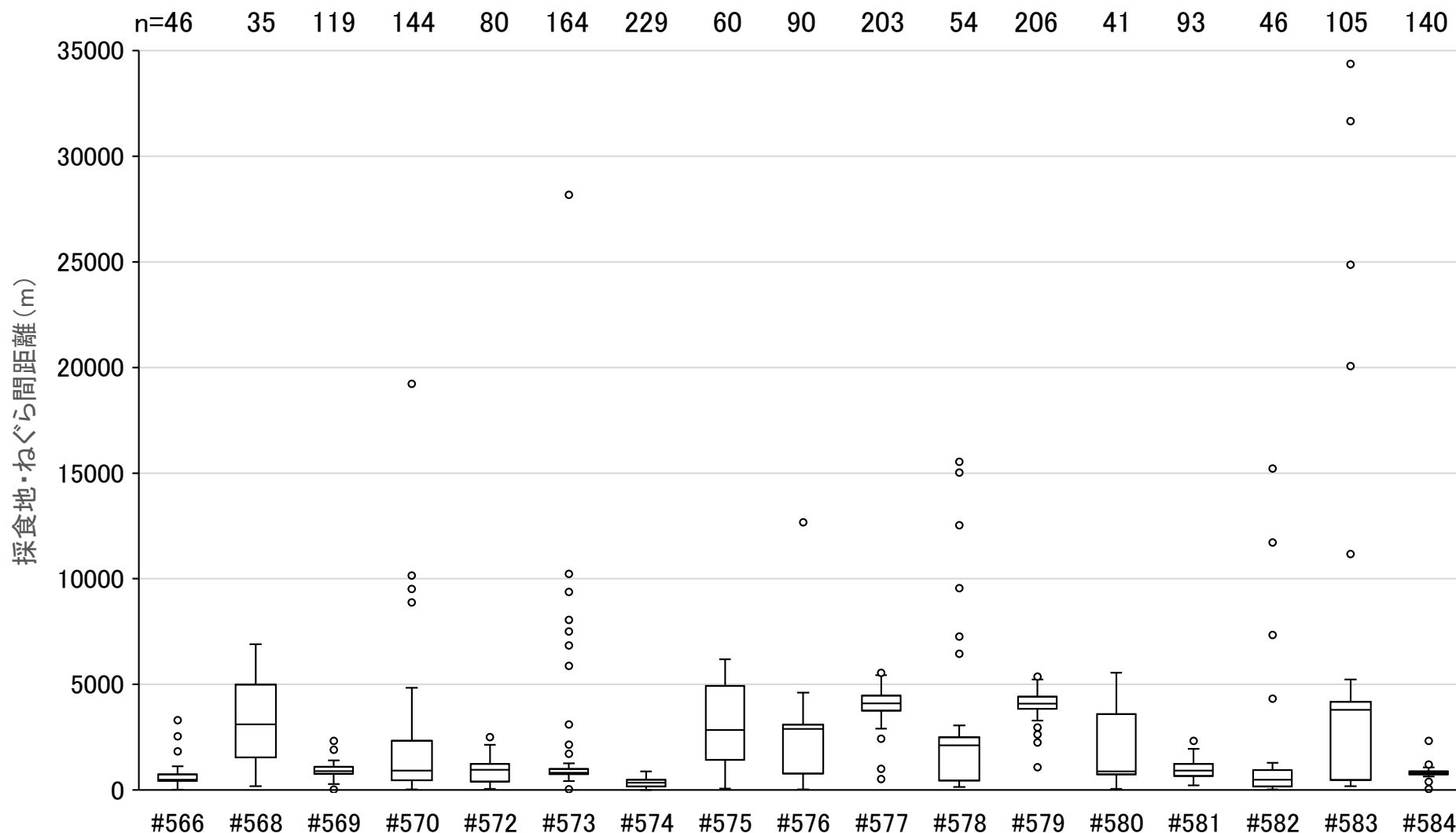


図8 放鳥トキの推定採食地からねぐらまでの距離

7. 能登地域における採食地及びねぐら

- ・奥山の山林や谷戸斜面林をねぐらとすることが多いものと推定された。
一方、集落周辺林も少なからずねぐらとなっているものと推定された。

【判読方法】8月末までの有効測位点（n=4165）から、ねぐらと判断される20:00の測位点（n=987）を抽出。さらに放鳥トキ18個体それぞれ5地点（#571のみ4地点）を無作為に抽出し、航空写真と重ねてねぐら環境を判読した（n=89）。

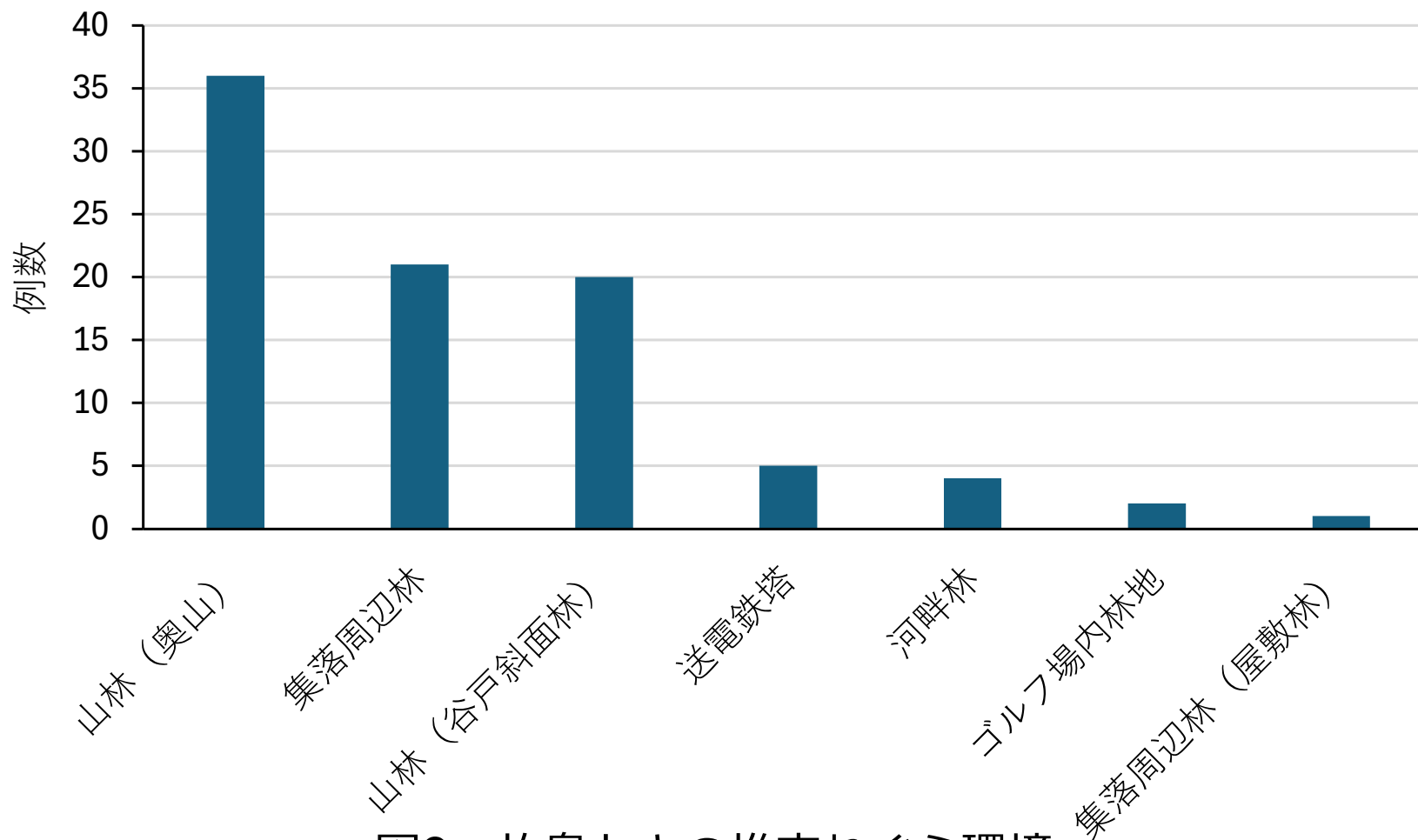


図9 放鳥トキの推定ねぐら環境

7. 能登地域における採食地及びねぐら

- ・ねぐらと判断される20:00の測位点（n=987）は、個体ごとに同じ場所（概ね100m圏）に集中することが多く、ねぐらを繰り返し利用することが多いものと考えられた。

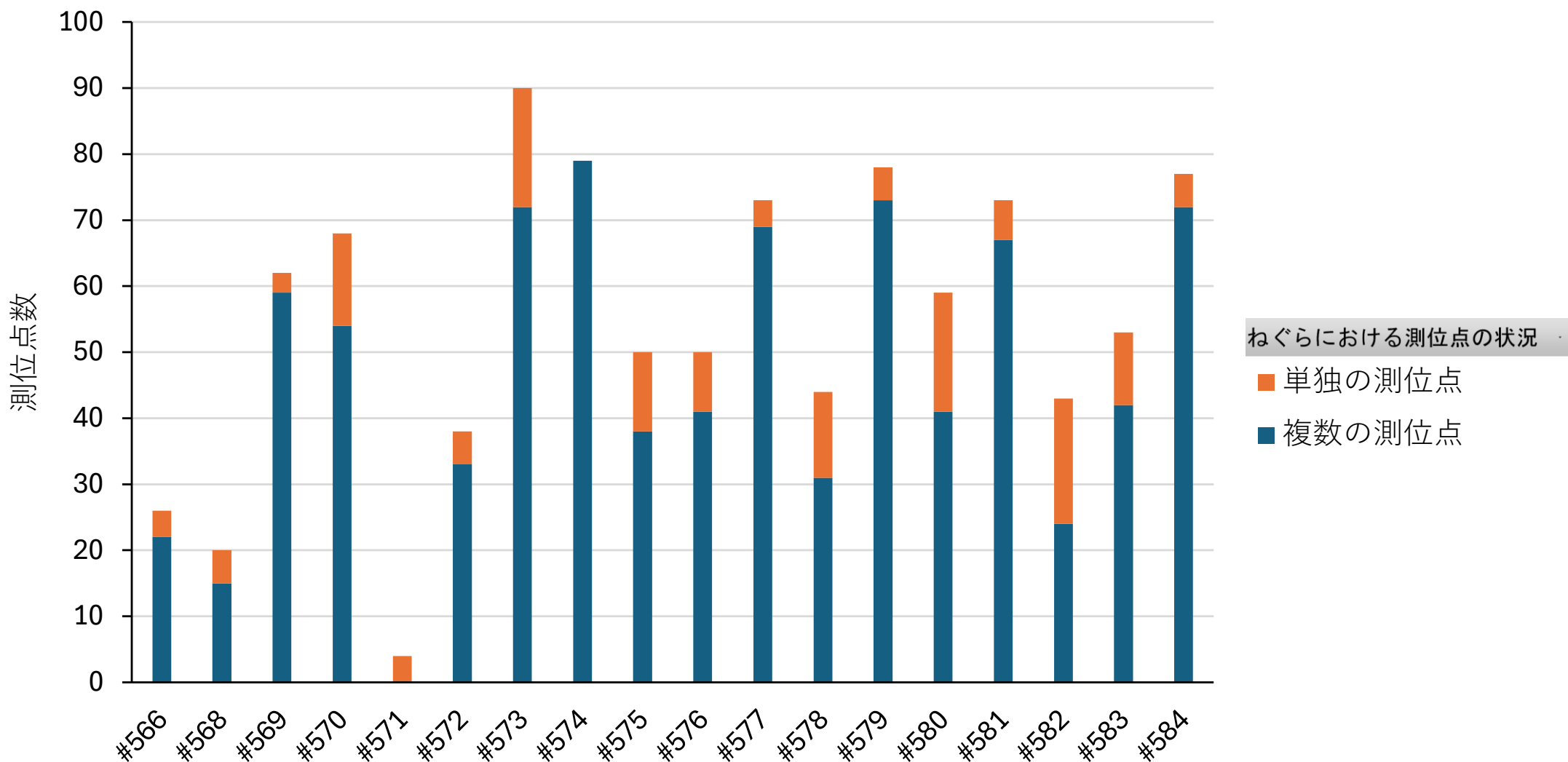


図10 放鳥トキの推定ねぐらにおけるGNSS測位点の単独/複数の分類

8. 水害後のトキの状況

- ・ #582は記録的大雨(2026/8/27)の前後で日中の利用域の移動が見られたが、大雨前の8/26時点で既に大雨後の利用域に移動していた。
- ・ #583は記録的大雨の前後で日中の利用域の移動が見られたものの、8/28-30の測位点は過去の滞在地域と重複していた。
- ・ #568 は記録的大雨後の8/28-29に他所への移動が見られたが、8/30には大雨前の利用域に回帰した。
- ・ その他の個体は浸水被害のあった邑知潟を利用する個体も含め、日中の利用域の顕著な移動は見られなかった。

⇒水害によるトキへの重大な影響はなかったと考えられる。
採食地の消失等、多少の影響があったにしても水害後の採食地は確保できていると考えられる。

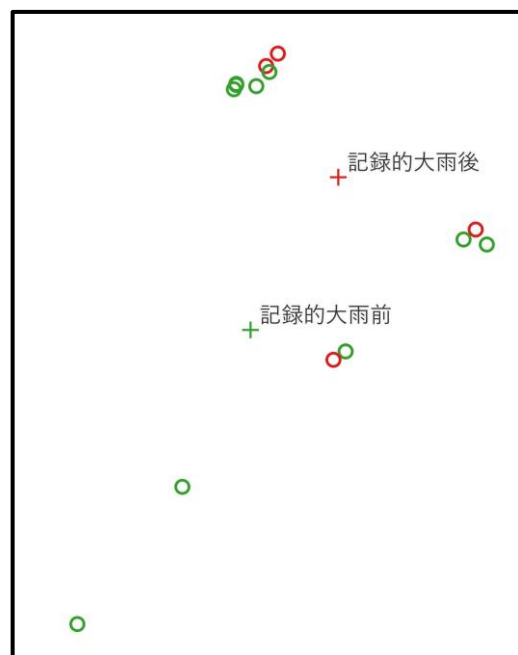


図11 記録的大雨前後3日間（8/24-26及び28-30）の日中測位点の重心（平均座標、+で示す）の算定例

放鳥番号	記録的大雨前後3日間の日中測位点重心(平均座標)の水平距離(m)
#582	19,509
#583	4,268
#568	3,309
#576	1,600
#575	1,509
#584	1,330
#580	1,273
#573	1,105
#570	922
#579	740
#577	667
#574	477
#578	431
#569	416
#572	408
#581	370
#566	290

図12 記録的大雨前後3日間の日中測位点

9. No.571個体について

- ・ #571はハードリリース後、バッテリーの低電圧が続き、位置情報の取得は断片的であった。電圧が上がらない理由として、GNSS足環の照度データ（下図）から#571は他個体に比べて日当たりが悪い場所で行動することが多いものと推測された。
- ・ 2026年9月18日以降は電圧が回復し、安定的に位置情報が取得されるようになった。行動が変化したものと推測される。

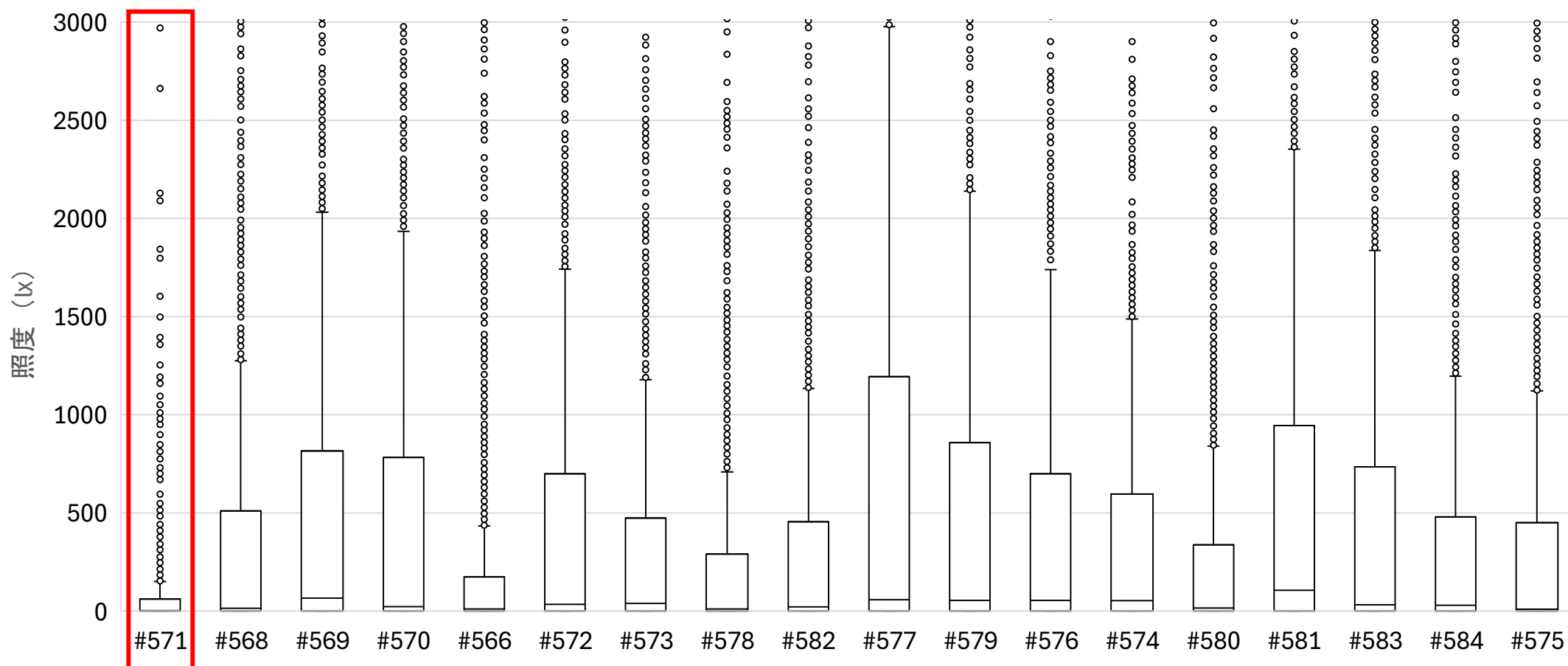
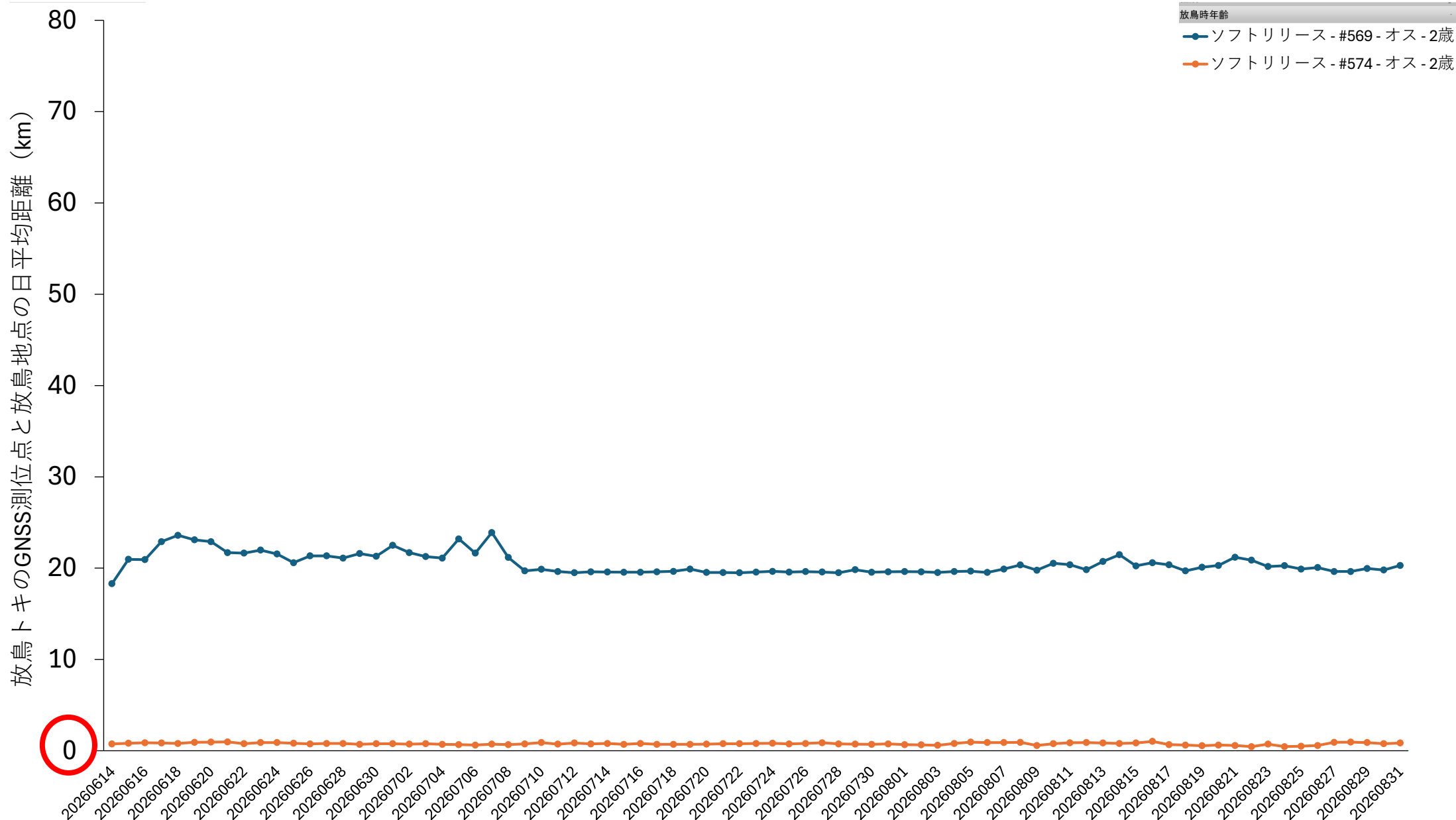


図13 放鳥トキのGNSS足環で計測された照度

※3000lx以上非表示



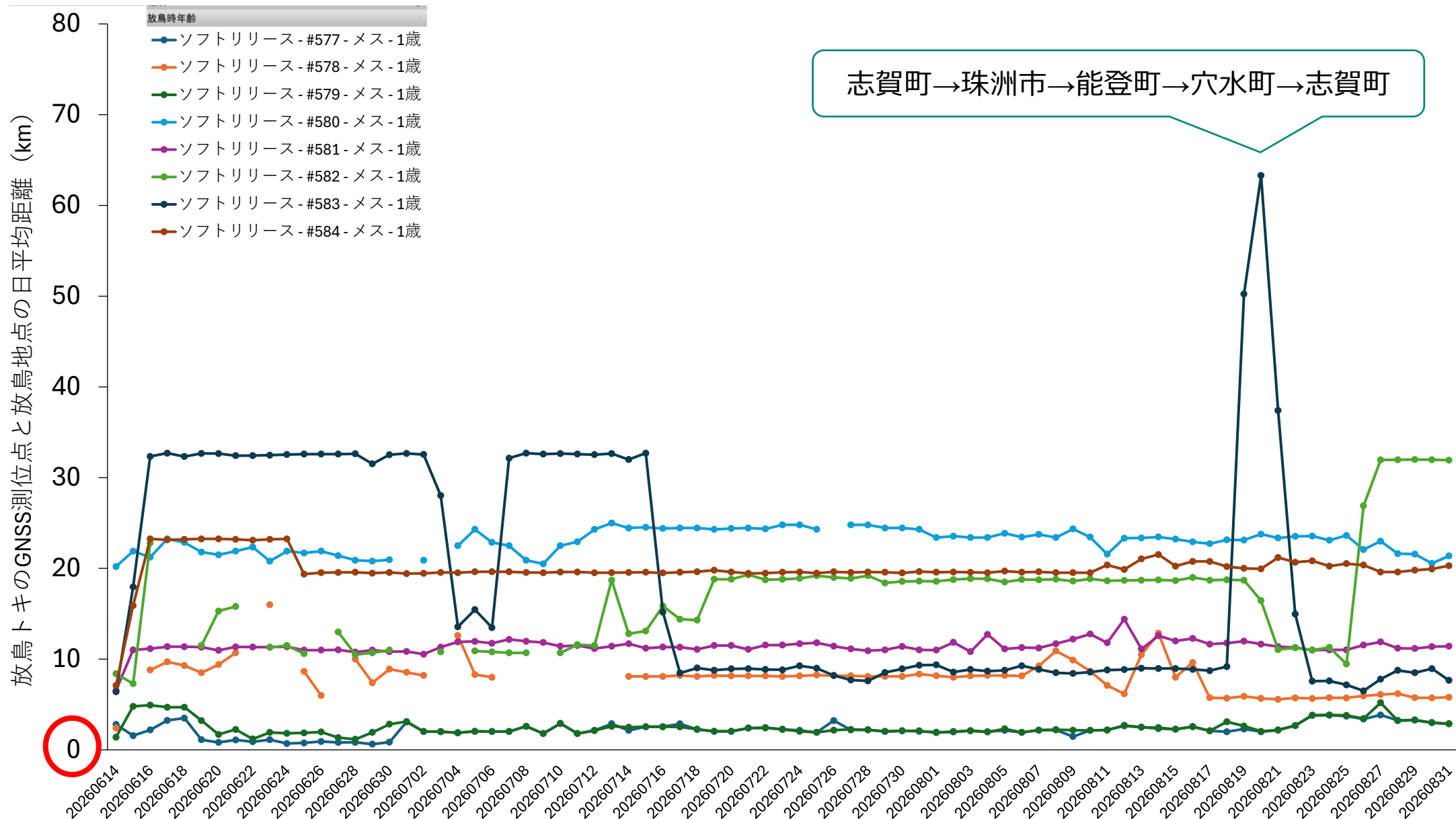
(参考資料) トキの定着状況 (ソフトリリース : オス)



○ 放鳥地点

図15 放鳥トキの移動履歴 : ソフトリリース・オス

(参考資料) トキの定着状況 (ソフトリリース：メス)



○ 放鳥地点

図16 放鳥トキの移動履歴：ソフトリリース・メス

出雲市における第1回放鳥計画について



令和8年10月14日
島根県出雲市

出雲市におけるトキの放鳥及びモニタリング計画の進捗状況について

トキの放鳥計画

- 放鳥時期 令和9年5月下旬～6月上旬
- 放鳥方法 ソフトリリースとハードリリースの併用
- 放鳥羽数 最大20羽（能登地域における放鳥個体の定着状況を踏まえ、ソフトリリース15羽程度、ハードリリース5羽程度を予定）

■放鳥場所 出雲市稗原地区

【ソフトリリース】

出雲市トキ野生復帰アドバイザーでもある小宮輝之氏と環境省に現地確認していただき、ソフトリリース用仮設ケージの設置場所を確定。佐渡・能登地域での仮設ケージの仕様を踏襲し、寸法は能登地域より長辺を1サイズ（1.8m）大きく設計

【ハードリリース】

放鳥式スペース・障害物・トキ待機場所・駐車場・交通規制などを勘案し、稗原運動場を放鳥式会場として選定。出雲市トキ野生復帰アドバイザー小宮輝之氏に現地確認していただき、放鳥方法について助言をいただく



ケージ設置場所



稗原運動場

出雲市におけるトキの放鳥及びモニタリング計画の進捗状況について

モニタリング計画

- モニタリングチーム 10名程度（野鳥愛好家、鳥類専門家、市職員）
- 設立時期（予定） 令和9年1月
- 先進地視察（研修） 令和8年9月29日～10月2日
佐渡市におけるモニタリング方法の情報収集、モニタリング体験
※チームリーダー予定者・島根大学講師・市職員が参加
- 目撃情報入力フォーム 現在作成中
- 傷病個体等の対応 連絡窓口は、出雲市トキ分散飼育センターとし、県内で発見された場合は、市と県が連携して対応。一次救護は、県が指定する傷病野生鳥獣救護ドクターが行い、出雲市トキ分散飼育センターの空きスペースやソフトリリース用仮設ケージを利用し、保護飼養を行う。解剖検査が必要な場合は、県の家畜保健衛生所が実施
- その他 市と島根大学教育学部において、「トキの放鳥・野生復帰に係る調査研究等に関する協定書」を締結。放鳥後のトキの生息及び繁殖状況のモニタリング等を予定

ソフトリリース(案)について

■ 仮設ケージの概要（現在設計中）

- ・ サイズ：幅21.6m×奥行き12.0m×高さ4.7m
- ・ 仕様：くさび緊結式足場を躯体の基本とし、衝突緩衝ネットを設置
とまり木・給餌施設を設置
- ・ 付帯施設：害獣侵入防止柵、監視カメラ 等

■ 搬入時期 記念式典日と同日

■ 搬入羽数 15羽程度

■ 放鳥時期 搬入から2週間程度経過後

■ 環境整備

仮設ケージ周辺に餌場を重点整備中。地元住民で設立された「出雲トキ応援隊」が江の設置・草刈り等の維持管理などに取り組む

■ 検討事項

- ・ 放鳥個体の飼育期間
- ・ 飼育期間中の警備員の配置
- ・ 仮設ケージの複数年利用（3年継続）

【仮設ケージの設置イメージ】

トキソフトリリース用仮設ケージ設置計画平面図

施設配置計画

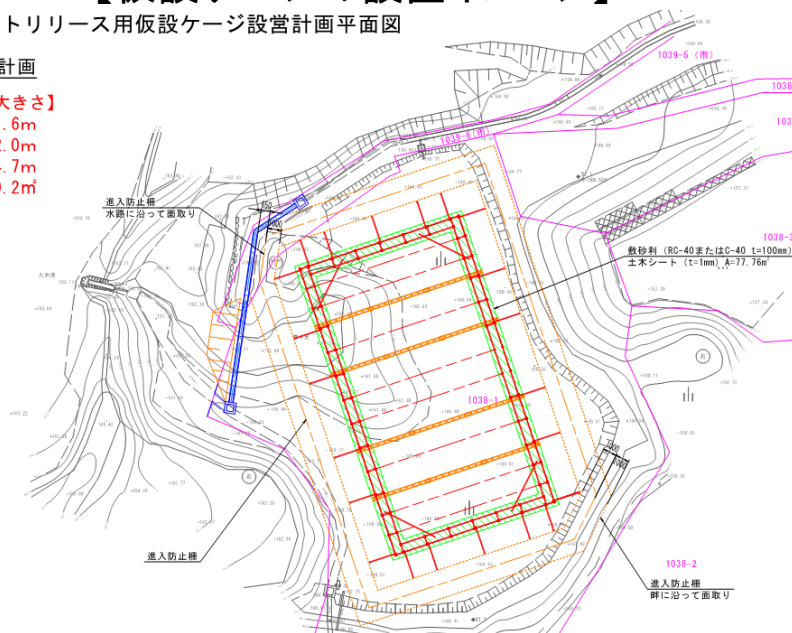
【ケージの大きさ】

長辺：21.6m

短辺：12.0m

高さ：4.7m

面積：259.2㎡



設置場所	長さ	奥行き	高さ	面積	飼育羽数	飼育面積/羽
R9出雲 長辺のみ広いver	21.6m (19.2m)	12.0m (9.6m)	4.7m (3.0m)	259.2㎡ (184.32㎡)	15羽	12.29㎡
R9出雲 羽咋と同じver	19.8m (17.4m)	12.0m (9.6m)	3.6m (3.0m)	237.6㎡ (167.04㎡)	15羽	11.14㎡
R8羽咋	19.8m (17.4m)	12.0m (9.6m)	3.6m (3.0m)	237.6㎡ (167.04㎡)	10羽	16.70㎡
R6佐渡	19.8m (17.4m)	9.0m (6.6m)	3.6m (3.0m)	178.2㎡ (114.84㎡)	7羽	16.41㎡
H20佐渡	27.5m (25.0m)	11.0m (10.0m)	5.0m (3.0m)	302.5㎡ (250.0㎡)	20羽	12.50㎡

※表中()内は飼育空間の数値

トキ放鳥記念式典(案)について

- 名 称 島根県出雲市トキ放鳥記念式典及び放鳥式（仮称）
- 主 催 出雲市、環境省（実行委員会方式。今後、島根県にも参画を依頼予定）
- 式典開催日 令和9年5月下旬～6月上旬
- 式典会場 朱鷺会館（トキ分散飼育センター隣接施設）又は、稗原小学校屋内運動場



朱鷺会館



稗原小学校

- 出席者 300人程度
国、島根県、出雲市、トキ野生復帰検討会委員、国内分散飼育地関係者など
- その他 参加者は、会場までシャトルバスで移動
詳細は、能登地域での式典をベースに、環境省・県・市の3者で今後検討



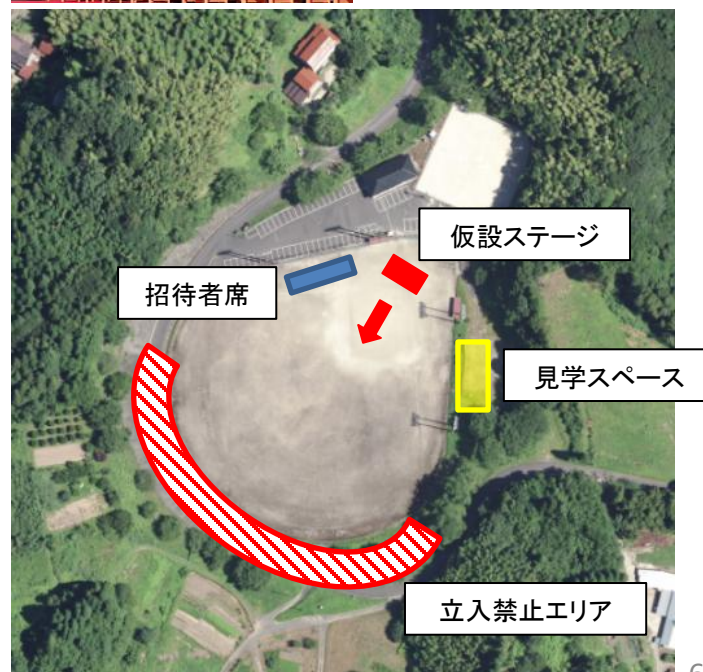
能登地域トキ放鳥記念式典の様
写真提供：石川県

放鳥式(案)について

- 放鳥式会場 稗原運動場
- 放鳥羽数 5羽程度（ハードリリース）
- 検討事項
 - ・ 仮設ステージ等の配置
 - ・ 一般見学者の募集（抽選）



能登地域放鳥式の模様
写真提供: 石川県



生息環境整備について

■ トキ生息環境整備事業費補助金の新設

これまでの補助制度に加え、トキの餌となる生き物の増加につながる取組に対する補助制度を令和8年度に新設

① ビオトープの整備



② 水田内土水路(江)の整備



【補助金額】

上限20万円(補助率:10/10)

【補助対象者】

水田管理者(耕作者、所有者)

【整備予定箇所数】

15か所

■ 様々な団体と連携した生息環境整備（公益財団法人日本鳥類保護連盟）

① 佐田町上橋波

実施主体：（農）橋波アグリサンシャイン ・ NPO法人いずも朱鷺21
・ 圃場内に土水路（江）を掘削し（4区画・約188m）、常時湛水域を整備



整備前（2025.6撮影）



整備後（2026.3撮影）

② 佐田町大呂

実施主体： NPO法人いずも朱鷺21
・ 休耕田（2区画5a）をビオトープとして整備



整備前（2025.11撮影）

整備後（2026.2撮影）

③ 野尻町（稗原地区）

実施主体：（農）野尻の郷
・ 圃場内に土水路（江）を掘削し（1区画約47m）常時湛水域を整備



整備前（2025.11撮影）

整備後（2026.2撮影）

1.

大型水鳥のねぐら・休息地となる自然裸地の再生を目指す事業の概要を提示。



2.

多様な生物が生息可能で、大型水鳥の採食地としても機能する



社会環境整備について

■ 様々な切り口・連携による情報発信

- ☑ 人気絵本作家 村上康成氏による
ワークショップ（8/9）・市長対談（8/10）



- ☑ 島根スサノオマジック（プロバスケットボール）
公式戦ゲームパートナー（5/2）



- ☑ 愛宕山公園
新たな近似種施設の整備（3/10）



- ☑ J Aしまね
広報誌に毎月連載



- ☑ 出雲市トキ啓発映像制作
（日本鳥類保護連盟）

- ◆ 完成予定
令和8年12月末
- ◆ 活用方法
市公式SNSによる配信、
学校の教材として活用

社会環境整備について

■企業や地域、学校・幼稚園における盛り上がり

- ☑ 出雲村田製作所・島根島津・島根富士通によるトキの授業



神戸川小学校
4年生(9/8)

- ☑ 地域伝統芸術（一式飾り）でトキをPR



斐川直江祭り(7/18)

- ☑ 稗原小学校と羽咋市邑知小学校が交流開始
児童によるトキサークル設立



児童が自主的に「トキめきサークル」を設立

- ☑ 地元企業によるトキのラッピング車両



足立運送

島根中央生コン

- ☑ 塩冶幼稚園トキの手形アート



手形で絵を作成
(9/3)

- ☑ 大津幼稚園 手作りのトキ凧



手作りのトキ
凧あげ(7/9)

社会環境整備について

■市公式SNS登録者によるトキ認知度調査結果

	R5.8	R6.9	R7.8	R8.8
登録者数(延べ人数)	41,267人	44,836人	48,219人	50,156人
回答者数 (回答率)	642人 (1.56%)	737人 (1.64%)	1,376人 (2.85%)	1,113人 (2.22%)
出雲市分散飼育センターのトキを見たことがある	65.6%	68.4%	66.9%	70.6%
トキの放鳥候補地に選定されたことを知っている	55.0%	59.6%	67.2%	84.2%
トキをシンボルとした環境にやさしいまちづくりに賛同する(賛同しない)	93.7% (0.9%)	91.1% (0.8%)	89.5% (1.4%)	88.6% (1.3%)
令和9年初夏の放鳥が決定したこと(R7までは目指していること)を知っている	—	29.5%	41.7%	69.5%
いずれもトキファンクラブを知っている	—	—	23.5%	31.2%

■無作為抽出によるアンケート調査

令和8年12月実施予定
(大正大学と共同実施)

今後の放鳥計画について

環境省自然環境局野生生物課 希少種保全推進室



今後の放鳥計画について

- ・ R 8 年初夏に18羽を放鳥、現在石川県及び富山県内に全羽が生存中（10月8日時点）。
- ・ R9の初夏は出雲市での放鳥決定済。「本州における放鳥の方針」にも記載の通り、定着・繁殖には継続的な放鳥が必要であるため、同年秋の放鳥については、能登地域にて実施することとしたい。
- ・ R10年以降は当面、初夏と秋で両地域を交互に実施予定としたい。

年度	初夏	秋	羽数等 (R9以降は現時点想定)
令和 8 年度	能登地域 (羽咋市)	能登地域 (中能登町)	・初夏：18羽 (ハード8羽、ソフト10羽) ・秋：10羽予定 (ソフト)
令和 9 年度	出雲市 (稗原地区)	能登地域	・初夏：最大20羽 ・秋：10～15羽
令和10年度	能登地域	出雲市	・初夏：10～15羽 ・秋：10～15羽

	放鳥実施済
	放鳥地域決定・公表済
	未決定

※必要に応じて佐渡島でも、初夏または秋のいずれかのタイミングで実施の可能性あり